

海の道むなかた館長

第1回 伊都国・斯馬国

西谷 正

I はじめに

倭人伝に見える伊都国・斯馬国

『翰苑』所引の『広志』に見える伊都国・斯馬国

II 伊都国の形成

(1) 稲作の始まり

(2) 伊都国の成立 — 弥生時代中期後半

(3) 伊都国の王墓 — 三雲南小路遺跡・井原鍵溝遺跡

III 伊都国の遺跡

(1) 国邑＝拠点集落 — 三雲・井原遺跡

(2) 邑落＝衛星集落 — 今宿五郎江・大塚遺跡

(3) 王墓 — 平原遺跡

(4) 玉生産 — 潤地頭給遺跡

(5) 一大率



IV 斯馬国の形成とその遺跡

(1) 首長墓 — 久米遺跡 (弥生時代中期前半)

(2) 国邑＝拠点集落 — 一の町遺跡 (弥生時代中期後半)

V 伊都国・斯馬国以後

前方後円墳の出現と伊観県主 — 端山古墳・若八幡宮古墳・一貴山銚子塚古墳

— 御道具山古墳・泊大塚古墳

VI おわりに

伊都国と邪馬台国

東南陸行五百里到
伊都國官曰爾支副曰泄
謨觚柄渠觚有千餘戶世
有王皆統屬女王國郡使
往來常所駐

東南、陸行すること五百里。伊都國に到る。官を爾支といひ、副を泄謨觚柄渠觚といふ。千余戸あり。世々王ありて、皆女王國に統屬す。郡使の往來、常に駐する所なり。

次有

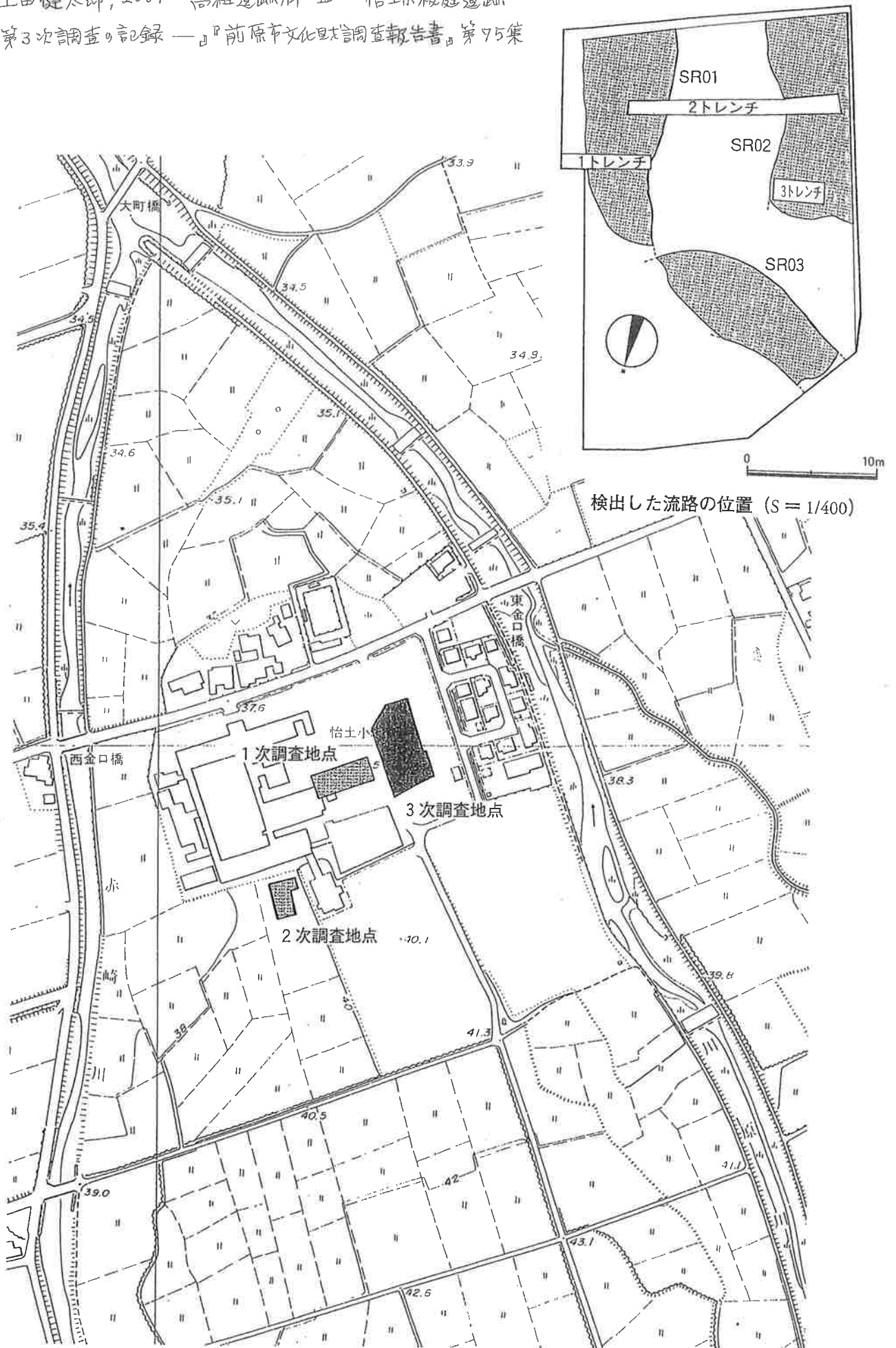
斯馬國次有已百支國次
有伊邪國次有郡支國次
有彌奴國次有好古都國
次有不呼國次有姐奴國
次有對蘇國次有蘇奴國
次有呼邑國次有華奴蘇
奴國次有鬼國次有爲吾
國次有鬼奴國次有邪馬
國次有躬臣國次有巴利
國次有支惟國次有烏奴
國次有奴國此女王境界
所盡

次に斯馬國あり。次に已百支國あり。次に伊邪國あり。次に郡支國あり。次に彌奴國あり。次に好古都國あり。次に不呼國あり。次に姐奴國あり。次に對蘇國あり。次に蘇奴國あり。次に呼邑國あり。次に華奴蘇奴國あり。次に鬼國あり。次に爲吾國あり。次に鬼奴國あり。次に邪馬國あり。次に躬臣國あり。次に巴利國あり。次に支惟國あり。次に烏奴國あり。次に奴國あり。これ女王の境界の尽きる所なり。

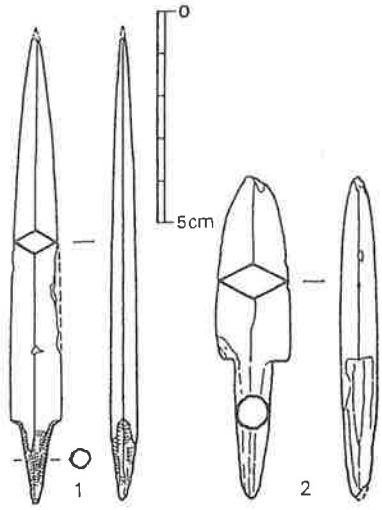
收租賦有邸

閣國國有市交易有無使
大倭監之自女王國以北
特置一大率檢察諸國畏
憚之常治伊都國 於國
中有如刺史王遣使詣京
都帶方郡諸韓國及郡使
倭國皆臨津搜露傳送文
書賜遣之物詣女王不得
差錯

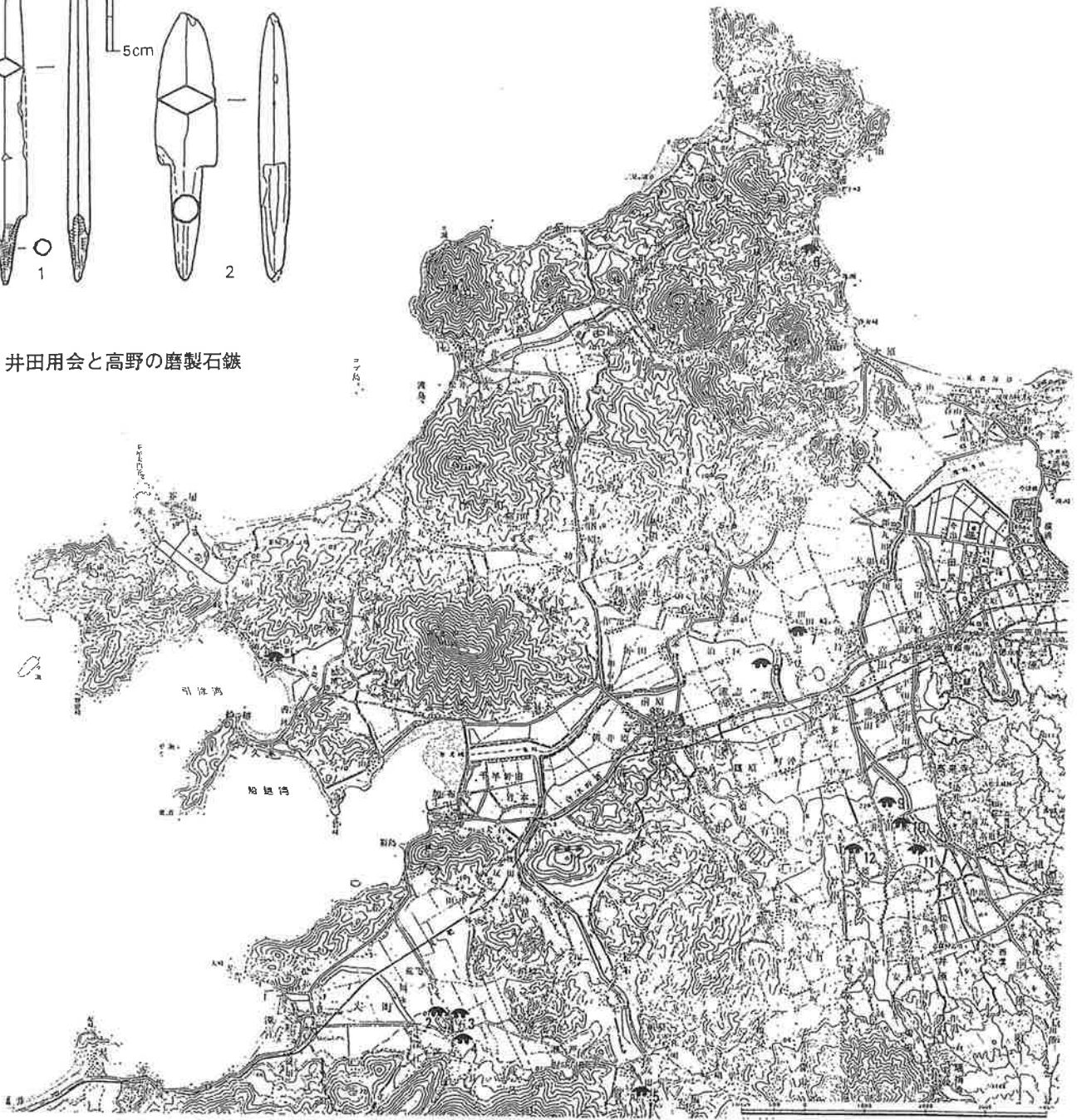
租賦を收むるに邸閣あり。国々に市ありて、有無を交易し、大倭をして之を監せしむ。女王国より以北は、特に一大率を置き、諸国を檢察せしむ。諸国之を畏憚す。常に伊都國に治す。
國中に刺史の如きあり。王、使を遣わして、京都、帶方郡、諸韓國に詣ること、及び郡の倭国に使用するは、皆津に臨みて搜露し、伝送の文書、賜遣の物は、女王に詣らしめ、差錯することを得ざらしむ。



遺跡周辺の地形 (S = 1/2,500)



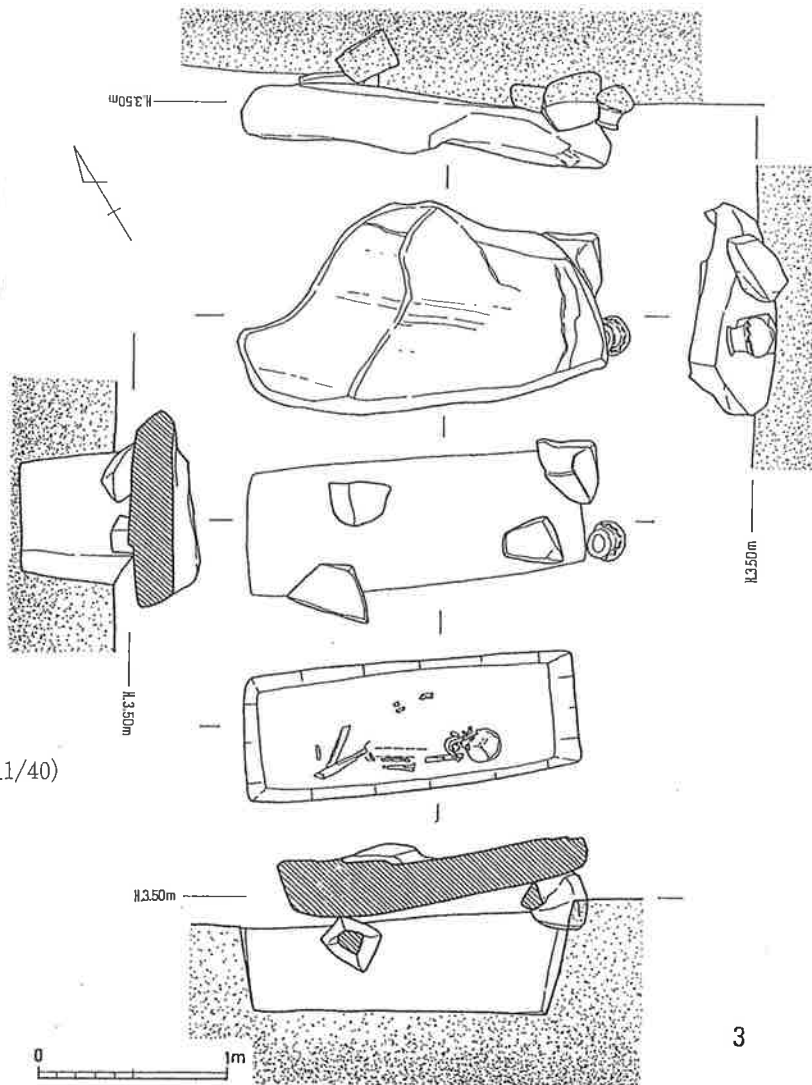
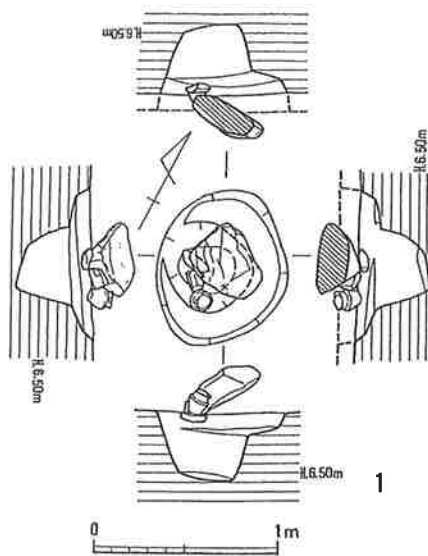
井田用会と高野の磨製石鏃



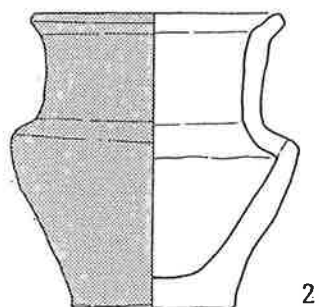
糸島地方の支石墓の分布

- | | | | |
|------------|--------------|--------------|------------|
| 1. 新町遺跡 | 2. 石崎曲り田遺跡 | 3. 石崎九反ヶ坪 | 4. 石崎矢風遺跡 |
| 5. 長野宮ノ前遺跡 | 6. 小田支石墓 | 7. 志登神社支石墓 | 8. 志登支石墓群 |
| 9. 井田用会支石墓 | 10. 井田御子守支石墓 | 11. 三雲加賀石支石墓 | 12. 石ヶ崎支石墓 |

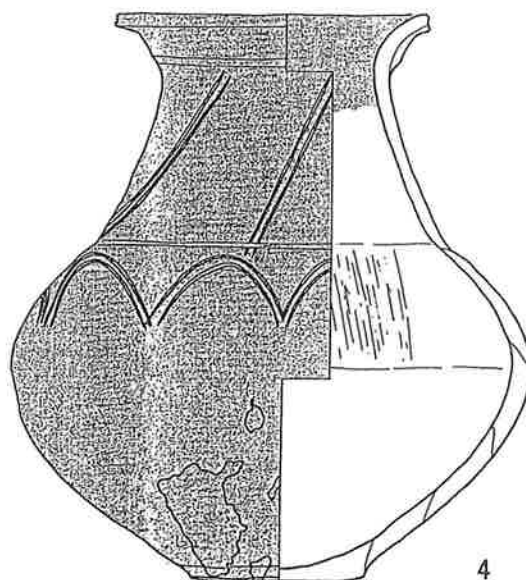
西谷 正, 1997 『東アジアにおける支石墓の総合的研究』九州大学



1. 石崎曲り田出土支石墓 (縮尺1/40)
2. 同上副葬小壺 (縮尺1/3)
(丹塗り)
3. 新町9号支石墓 (縮尺1/40)
4. 同上副葬小壺 (縮尺1/3)
(黒塗り)



0 10cm



4

糸島地方の支石墓と副葬小壺

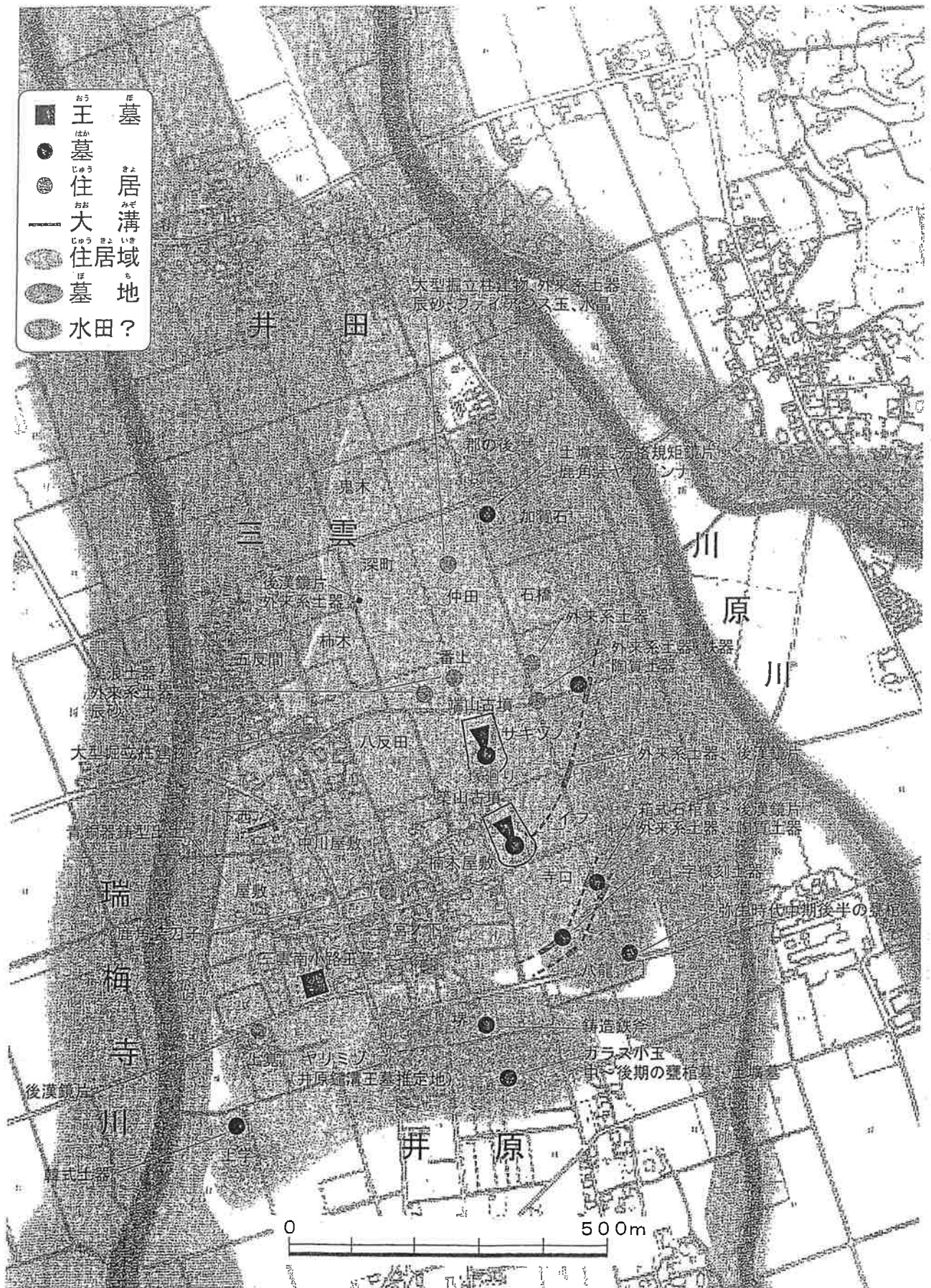
3世紀の東アジア諸国と北部九州の国々



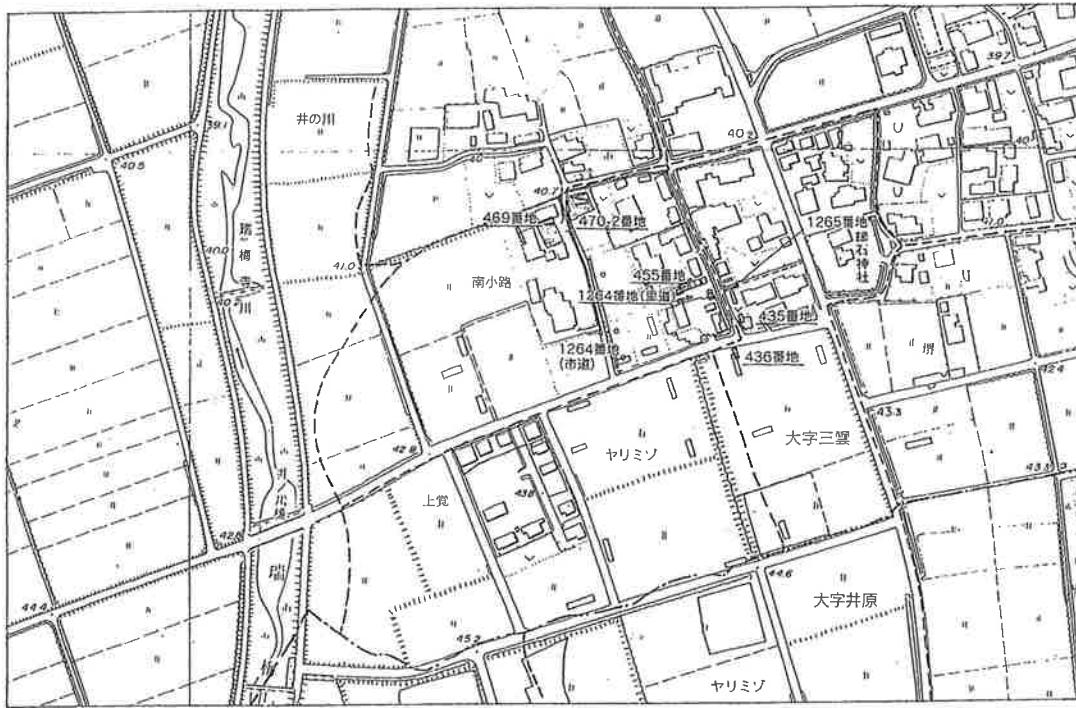
楽浪郡と帯方郡 らくろうぐん 楽浪郡は前漢の武帝が紀元前108年に朝鮮半島に設置した四郡のひとつ。中国本土から多くの官吏、商人らが移住し、その文化は周辺諸地域の人々に大きな影響を与えた。
たいほうぐん 帯方郡は三世紀初頭に遼東の公孫氏の台頭によって楽浪郡の南部に設置された郡。前漢の時代には倭人が楽浪郡に朝貢し、魏の時代には邪馬台国の女王卑弥呼が朝貢したとされている。



第19回国民文化祭前原市実行委員会ほか, 2004『シンポジウム 邪馬台国の時代「伊都国」』

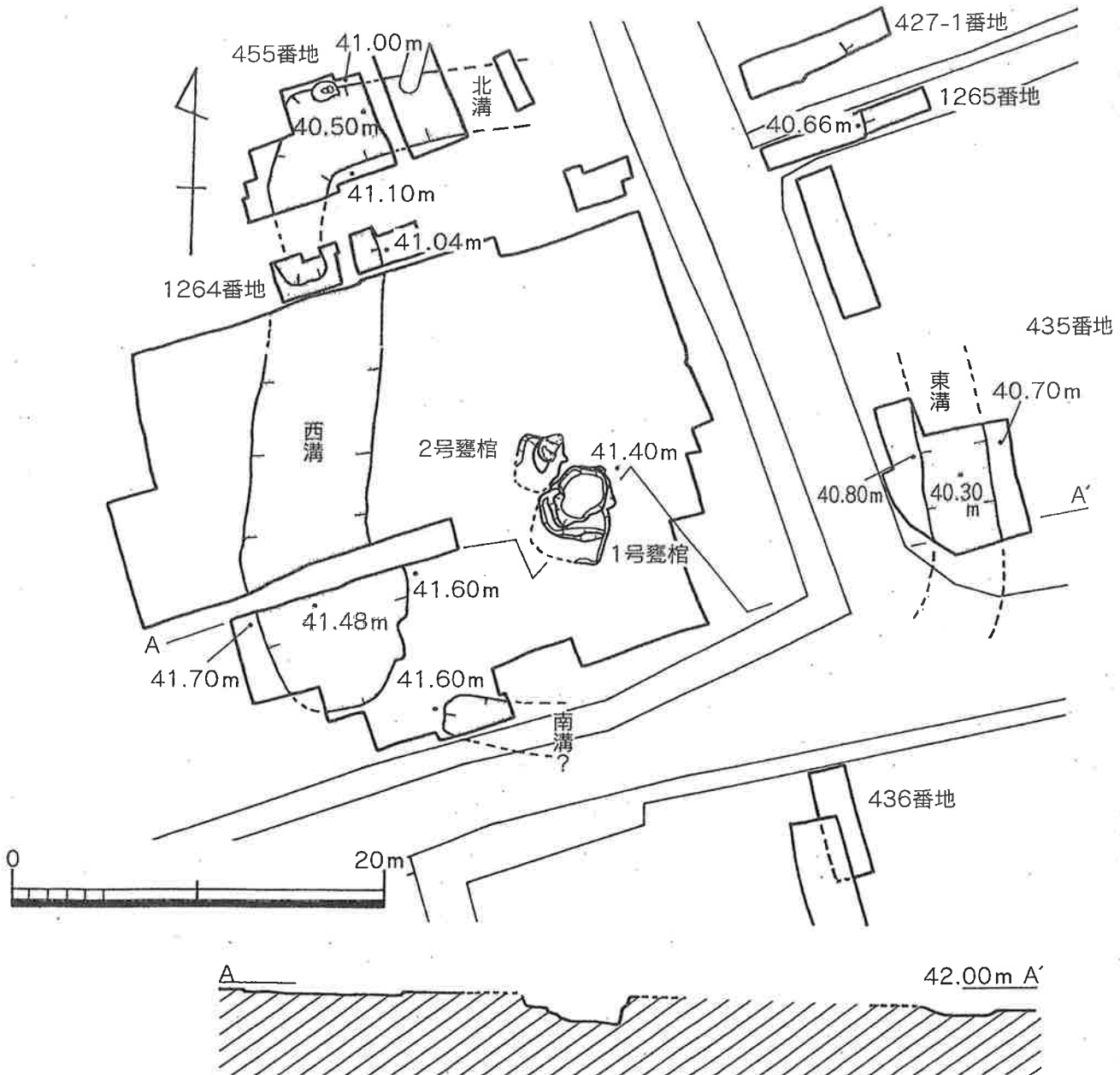


伊都国歴史博物館，2004『伊都国歴史博物館常設展示図録』

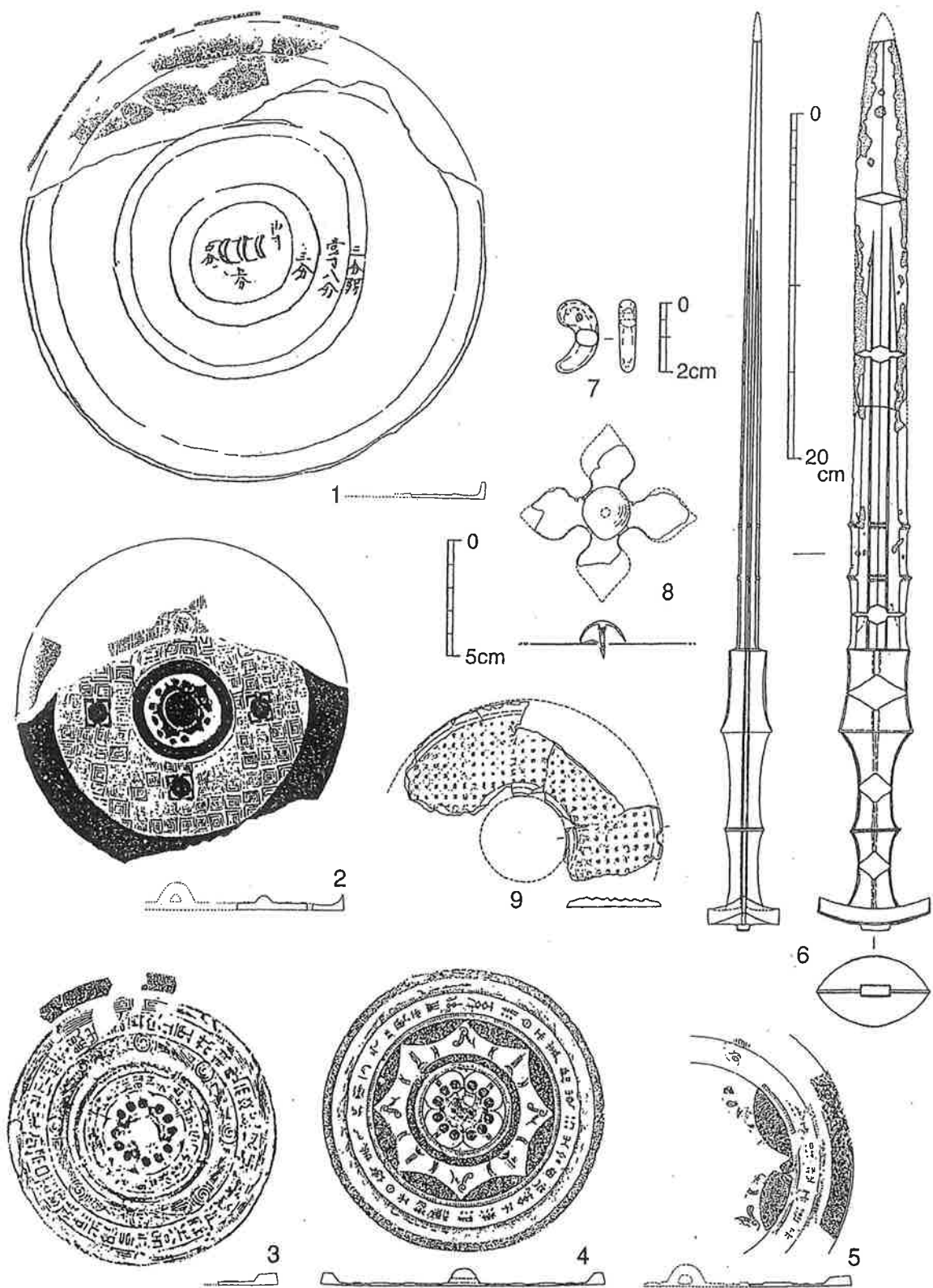


南小路地区周辺の主要調査地点

(薄アミかけ部分が既調査地点、濃アミかけ部分が本報告書報告地点)



三雲南小路遺跡遺構配置と断面概略図 (1/400)



三雲南小路王墓1号棺副葬品

(「三雲遺跡 南小路編」『福岡県文化財調査報告書』69)

柳田康雄, 2002『九州弥生文化の研究』学生社

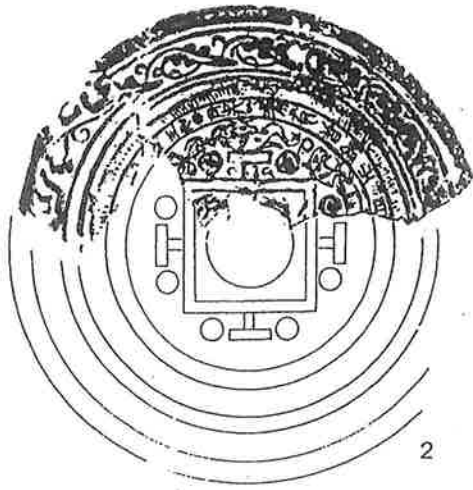
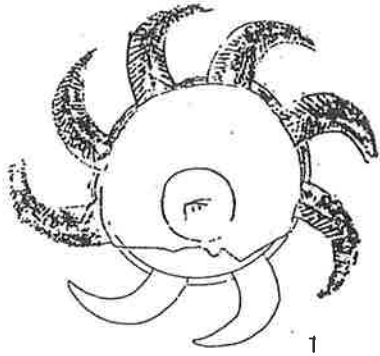


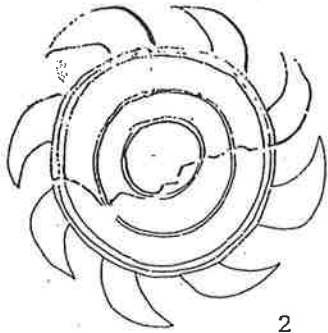
図1 井原鎧溝王墓出土鏡拓影



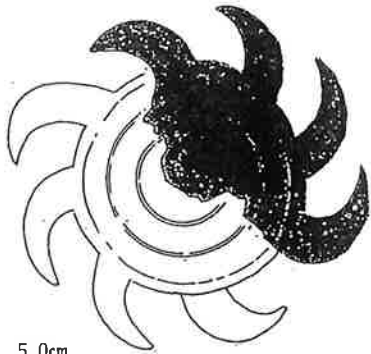
0 5 10cm



1



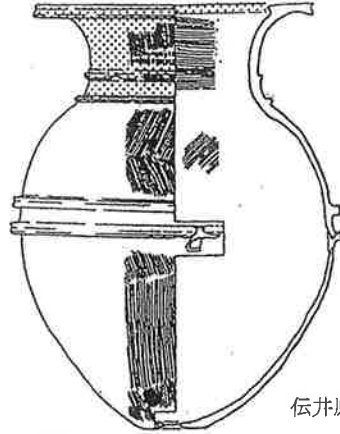
2



0 5.0cm

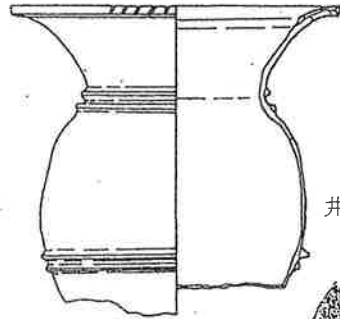
図2 井原鎧溝王墓出土巴形銅器

後期前葉

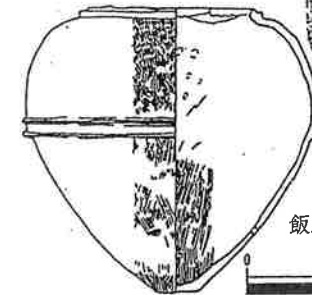


伝井原

後期中葉



井原塚



飯氏7号



雲雷文内行花文鏡

0 40cm

図3 糸島における弥生後期の大型壺を用いた甕棺例

岡部裕彦, 2004「倭国王「飯升」墓の可能性—井原鎧溝王墓—」『和馬台国の時代「伊都国」』



SD03 (7世紀以降道路)

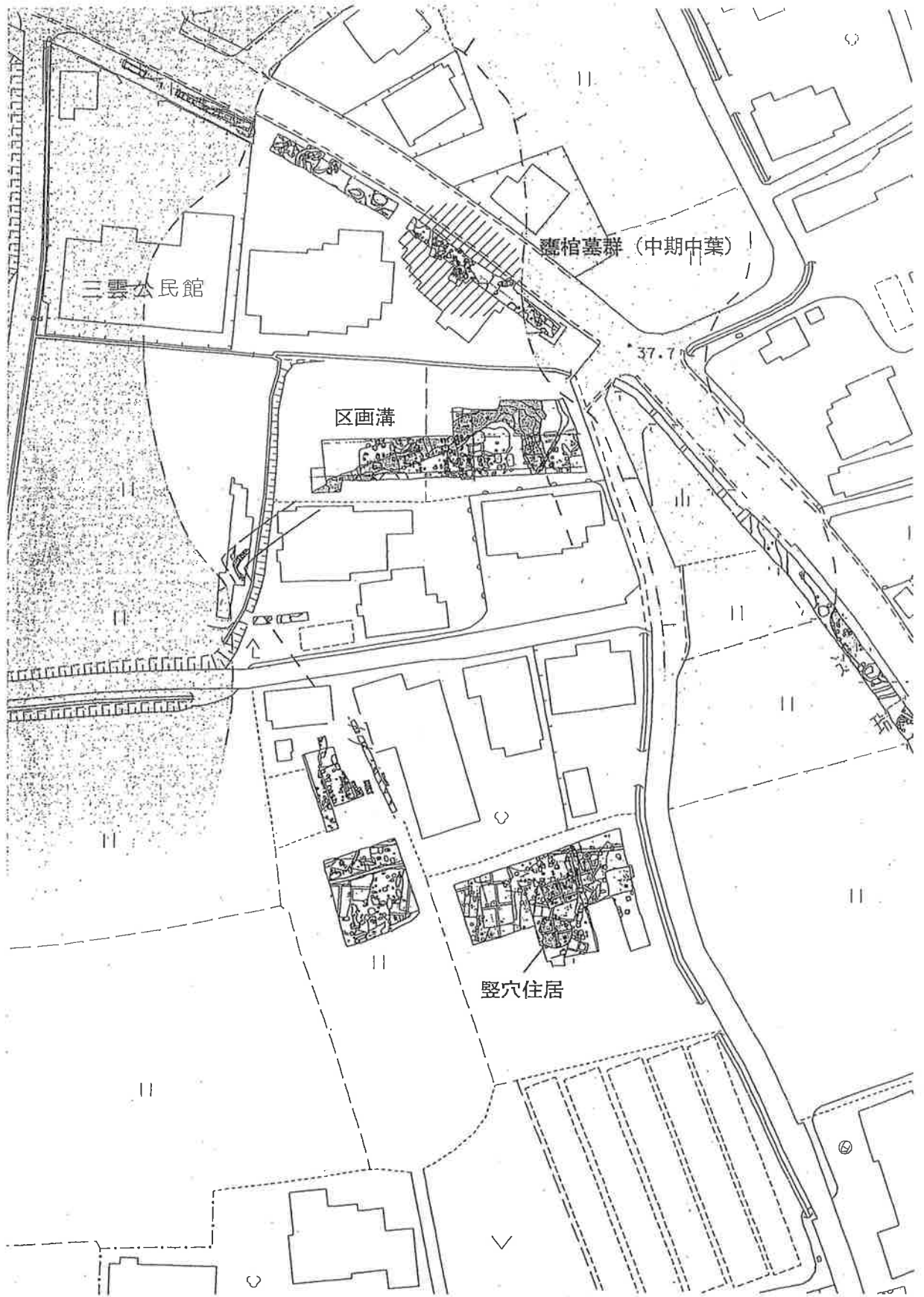


SD02に伴う可能性のある遺構群の範囲

※薄いアミは想定される空闲地。

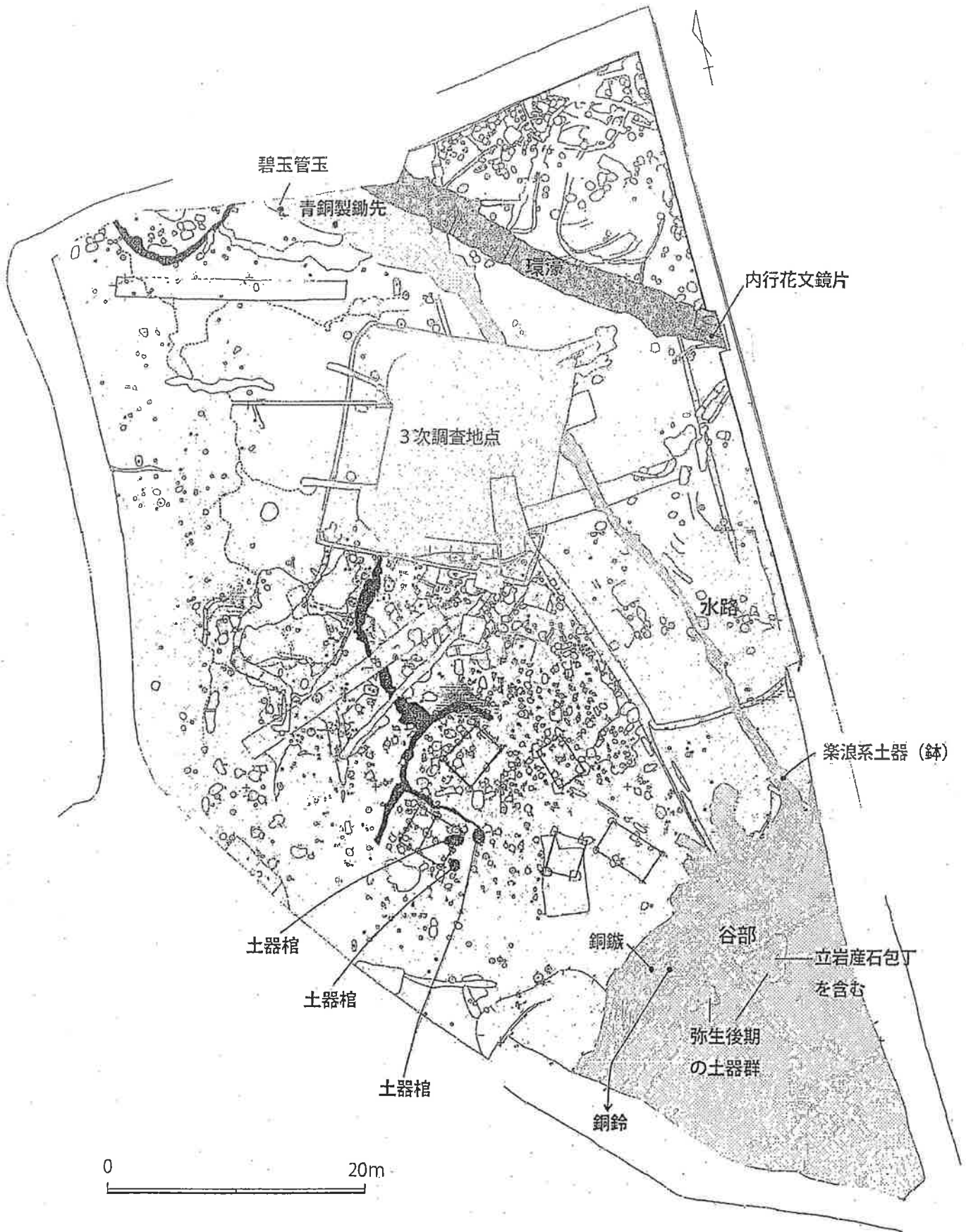
志登遺跡B地点調査区平面図

久住猛右衛門, 1999 「弥生時代終末期「道跡」の検出」『九州考古学』第74号



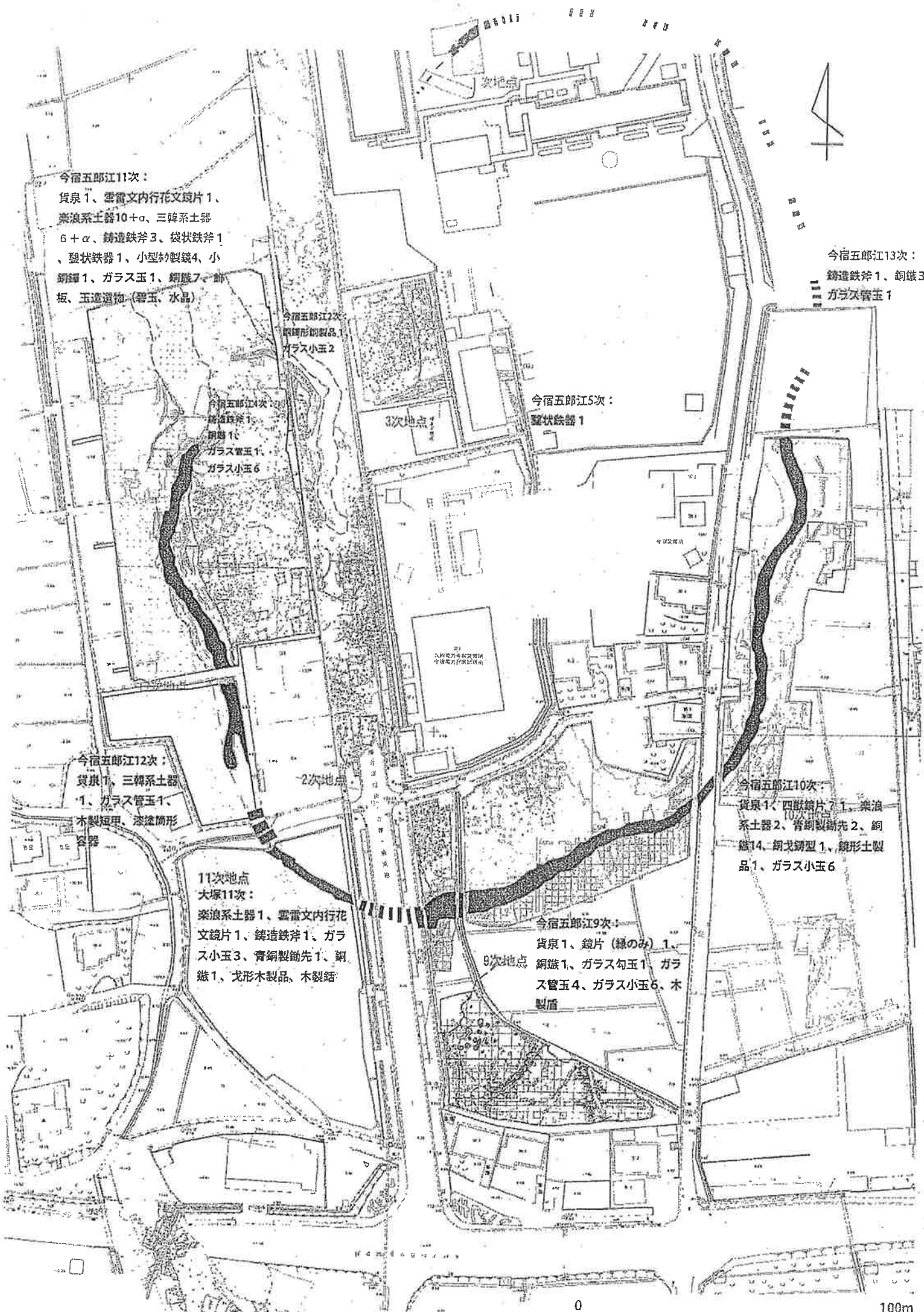
屋敷・下西地区の旧地形と区画溝配置図 (1/1000)

岡部裕彦・牟田華代子, 2006 『三雲・井原遺跡 ― 屋敷・下西地区の調査 ―』
『前原市文化財調査報告書』第90集



大塚遺跡第11次調査遺構配置図

福岡市教育委員会，2007 『大塚遺跡 第11次調査現地説明会資料』



今宿五郎江11次：
 貨泉1、雲雷文内行花文鏡片1、
 楽浪系土器10+a、三韓系土器
 6+a、鑄造鉄斧3、袋状鉄斧1
 、鑿状鉄器1、小型杓製鐵4、小
 銅鐃1、ガラス玉1、銅鏝7、飾
 板、玉造遺物(碧玉、水晶)

今宿五郎江2次：
 圓筒形銅製品1
 ガラス小玉2

今宿五郎江4次：
 鑄造鉄斧1
 銅鐃1
 ガラス管玉1
 ガラス小玉6

今宿五郎江5次：
 鑿状鉄器1

今宿五郎江13次：
 鑄造鉄斧1、銅鏝3、
 ガラス管玉1

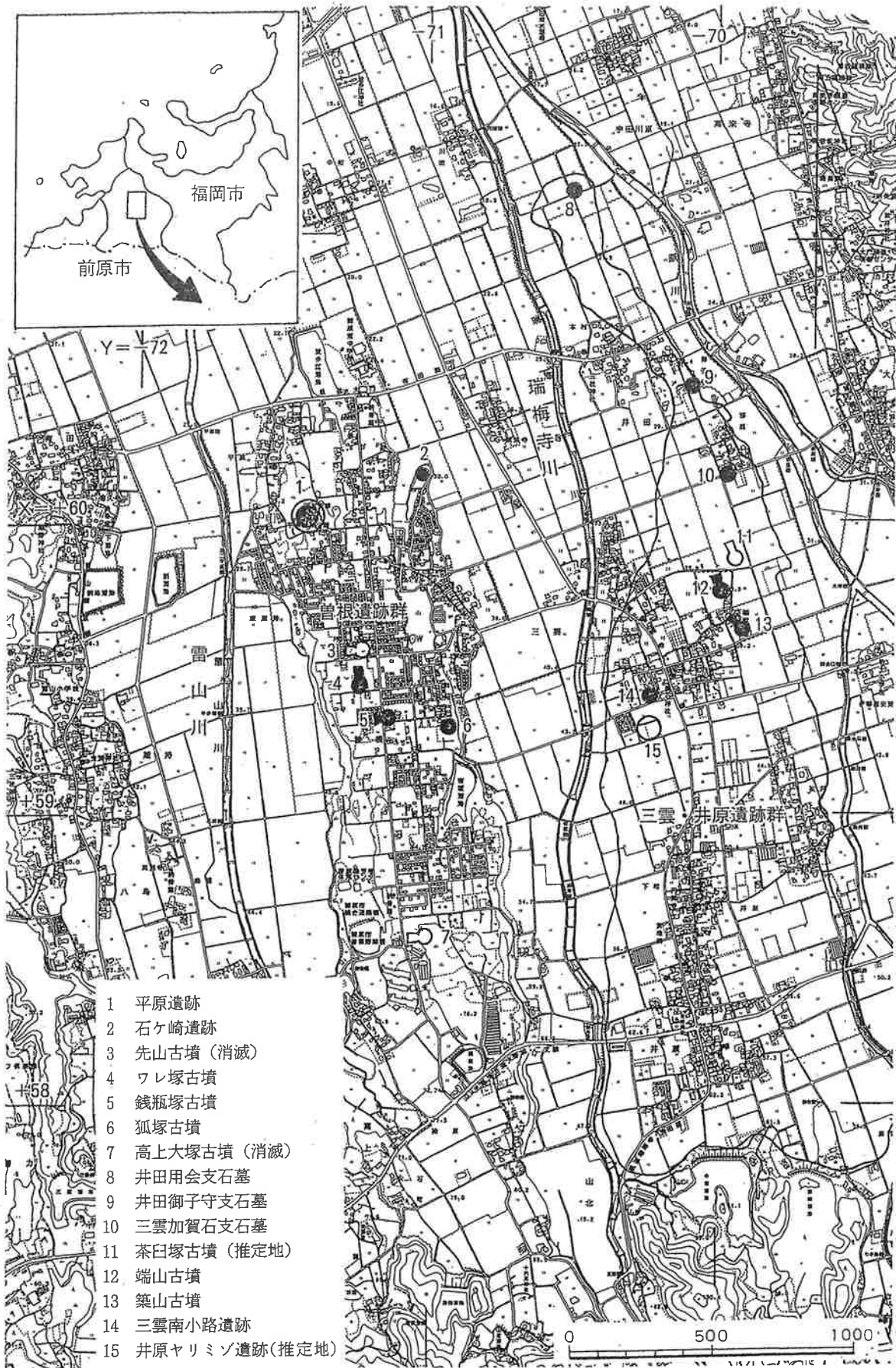
今宿五郎江12次：
 貨泉1、三韓系土器
 1、ガラス管玉1、
 木製短甲、漆塗筒形
 容器

11次地点
 大塚11次：
 楽浪系土器1、雲雷文内行花
 文鏡片1、鑄造鉄斧1、ガラ
 ス小玉3、青銅製鋤先1、銅
 鏝1、戈形木製品、木製銚

今宿五郎江10次：
 貨泉1、四銚鏡片7、楽浪
 系土器2、青銅製鋤先2、銅
 鏝14、胡戈鏃型1、鏡形土製
 品1、ガラス小玉6

今宿五郎江9次：
 貨泉1、鏡片(緑のみ)1、
 9次地点
 銅鏝1、ガラス勾玉1、ガラ
 ス管玉4、ガラス小玉6、木
 製盾

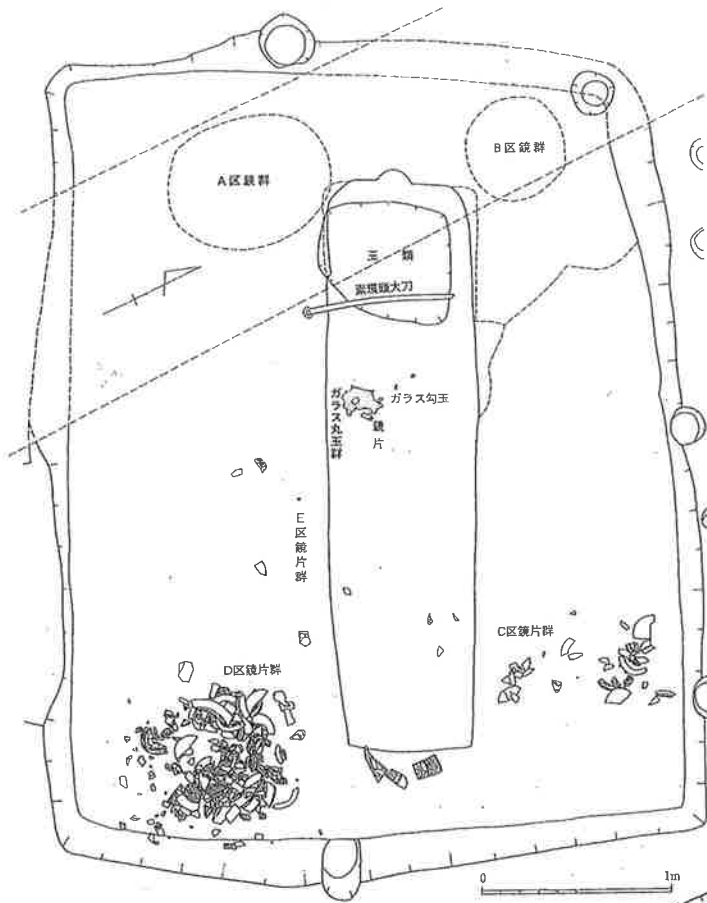
環濠復元図および主要遺物の分布



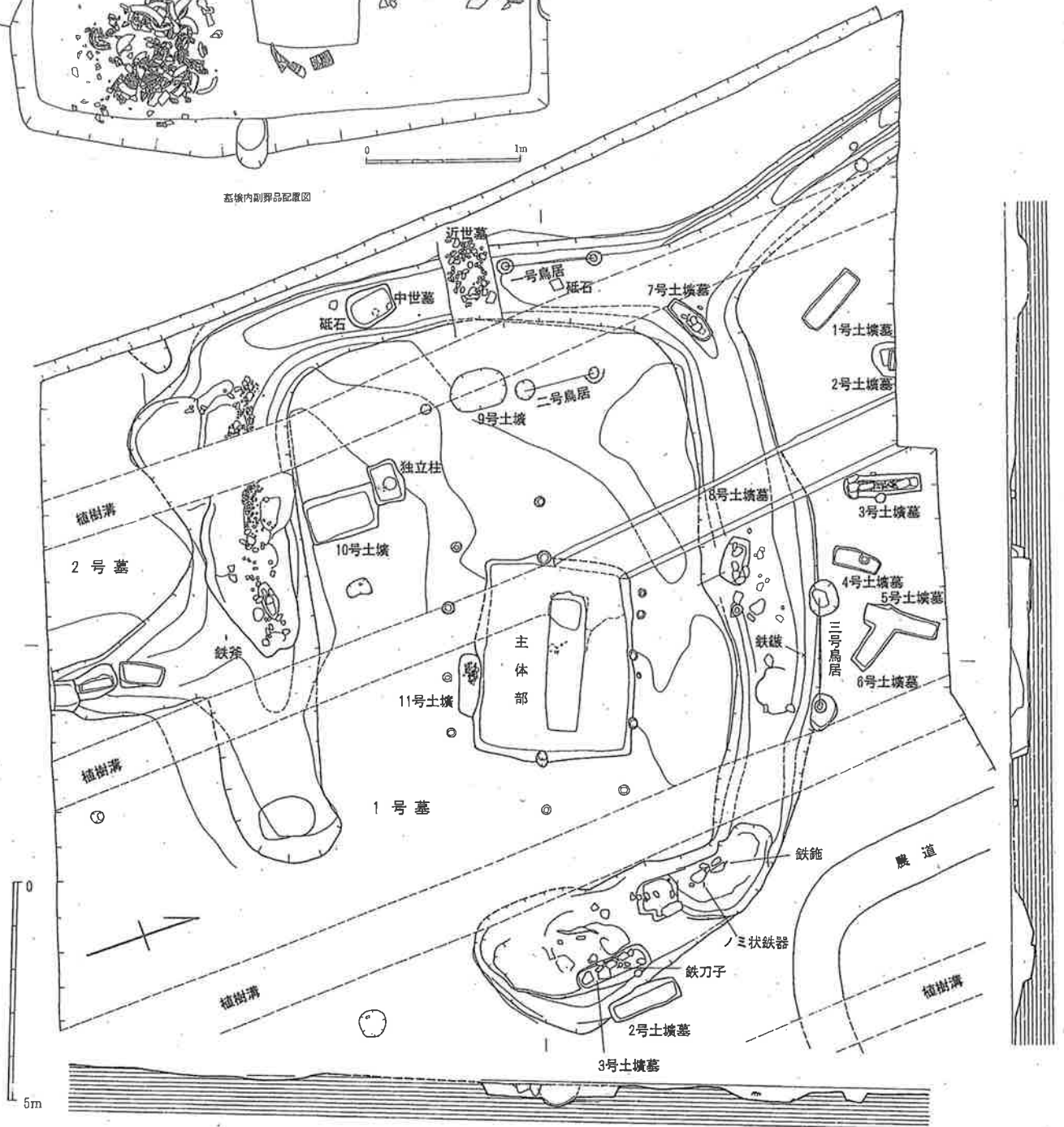
- 1 平原遺跡
- 2 石ヶ崎遺跡
- 3 先山古墳 (消滅)
- 4 ワレ塚古墳
- 5 銭瓶塚古墳
- 6 狐塚古墳
- 7 高上大塚古墳 (消滅)
- 8 井田用会支石墓
- 9 井田御子守支石墓
- 10 三雲加賀支石墓
- 11 茶臼塚古墳 (推定地)
- 12 端山古墳
- 13 築山古墳
- 14 三雲南小路遺跡
- 15 井原ヤリミソ遺跡 (推定地)

平原遺跡の位置と周辺遺跡 (1/20000)

柳田康久ほか, 2000『平原遺跡』『前原市文化財調査報告書』第70集



墓室内副葬品配置図



平原1号墓全体図

3号鏡 「尚方作」銘流雲文縁方格規矩四神鏡



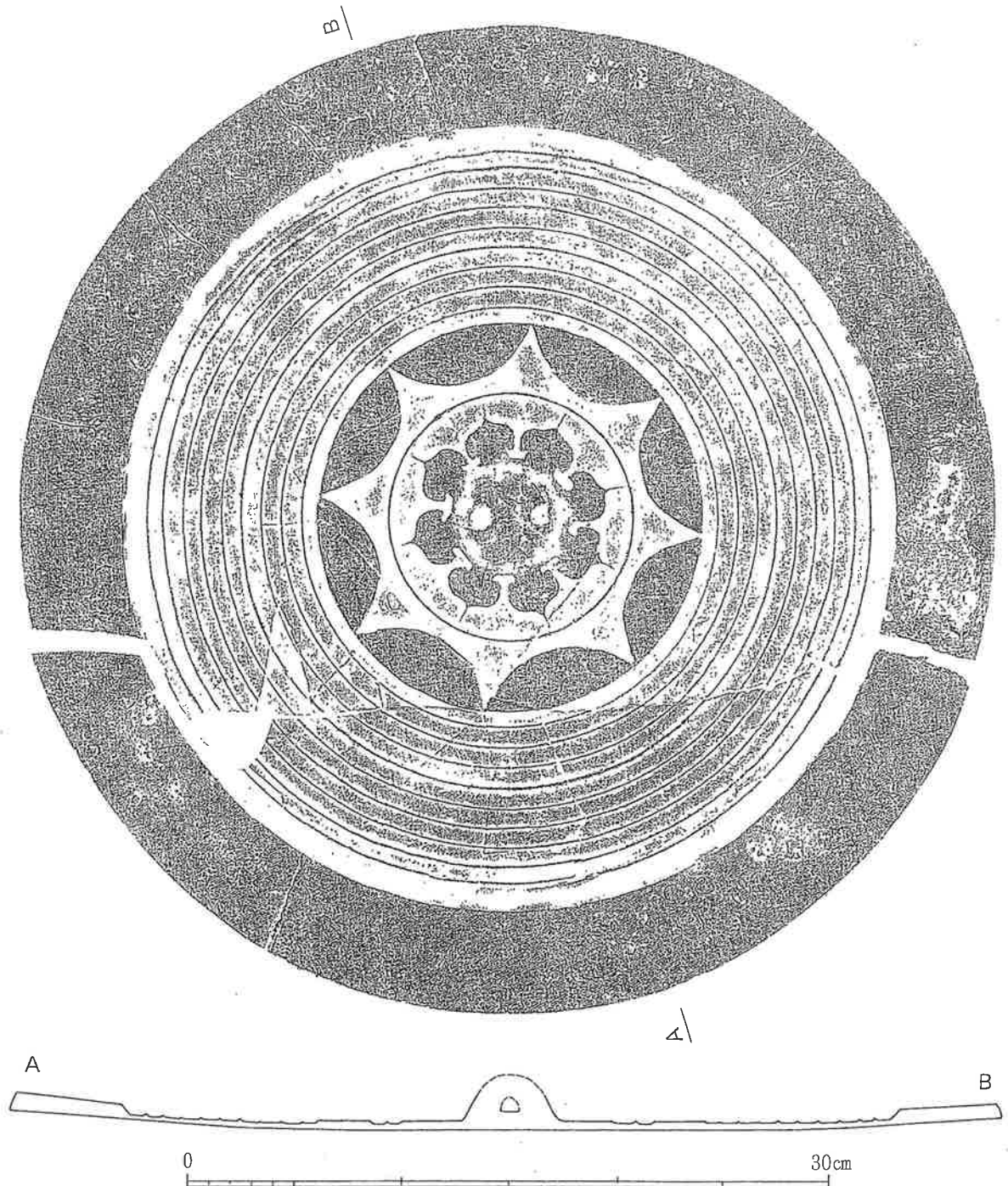
3号鏡拓本実測図

柳田康大准ほか, 2000 『平原遺跡』 『前原市文化財調査報告書』 第70集

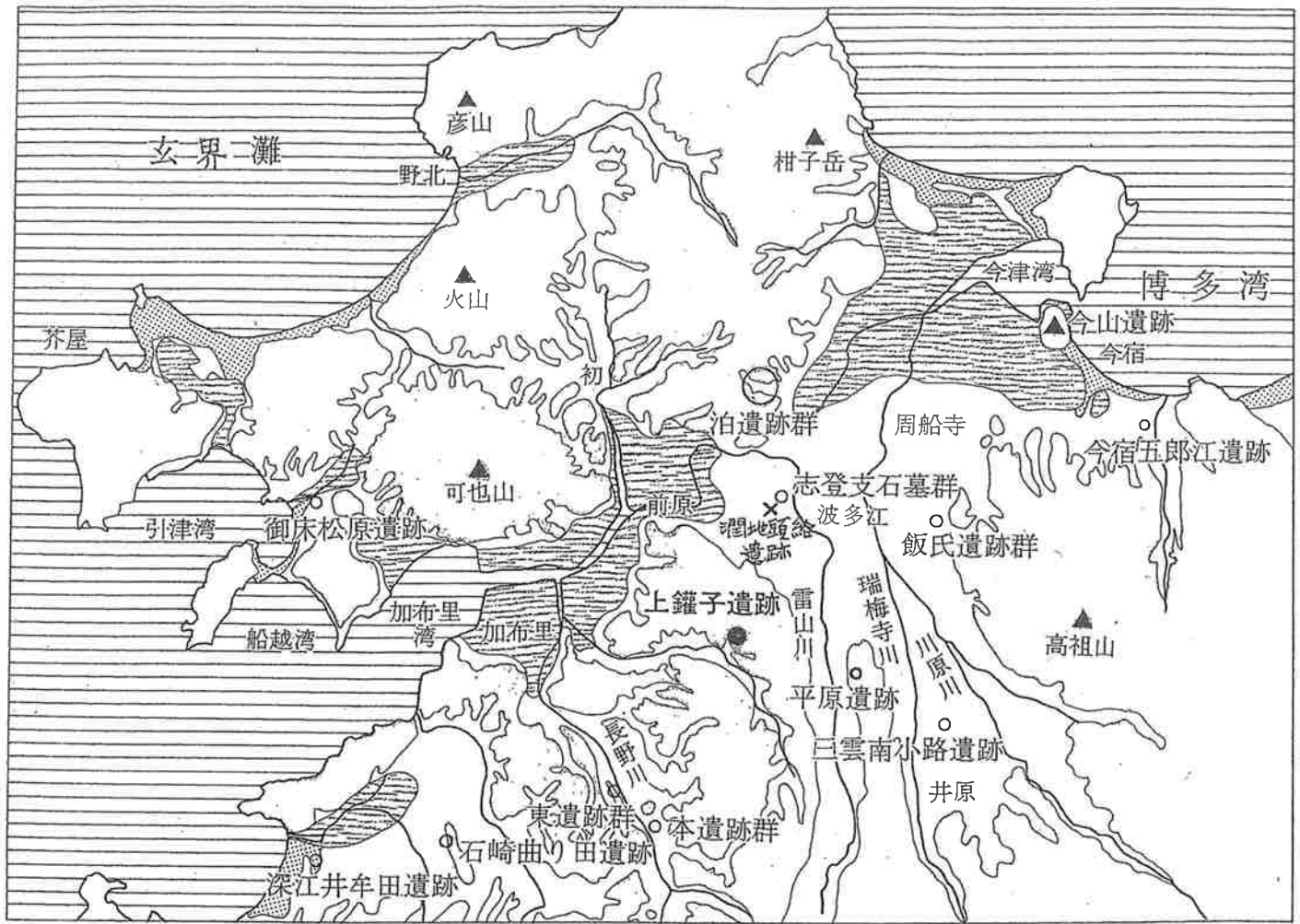
11号鏡 内行花文八葉鏡

A区で10号鏡と共伴した同型の超大型鏡。紋様構成は、10号鏡に同じ。

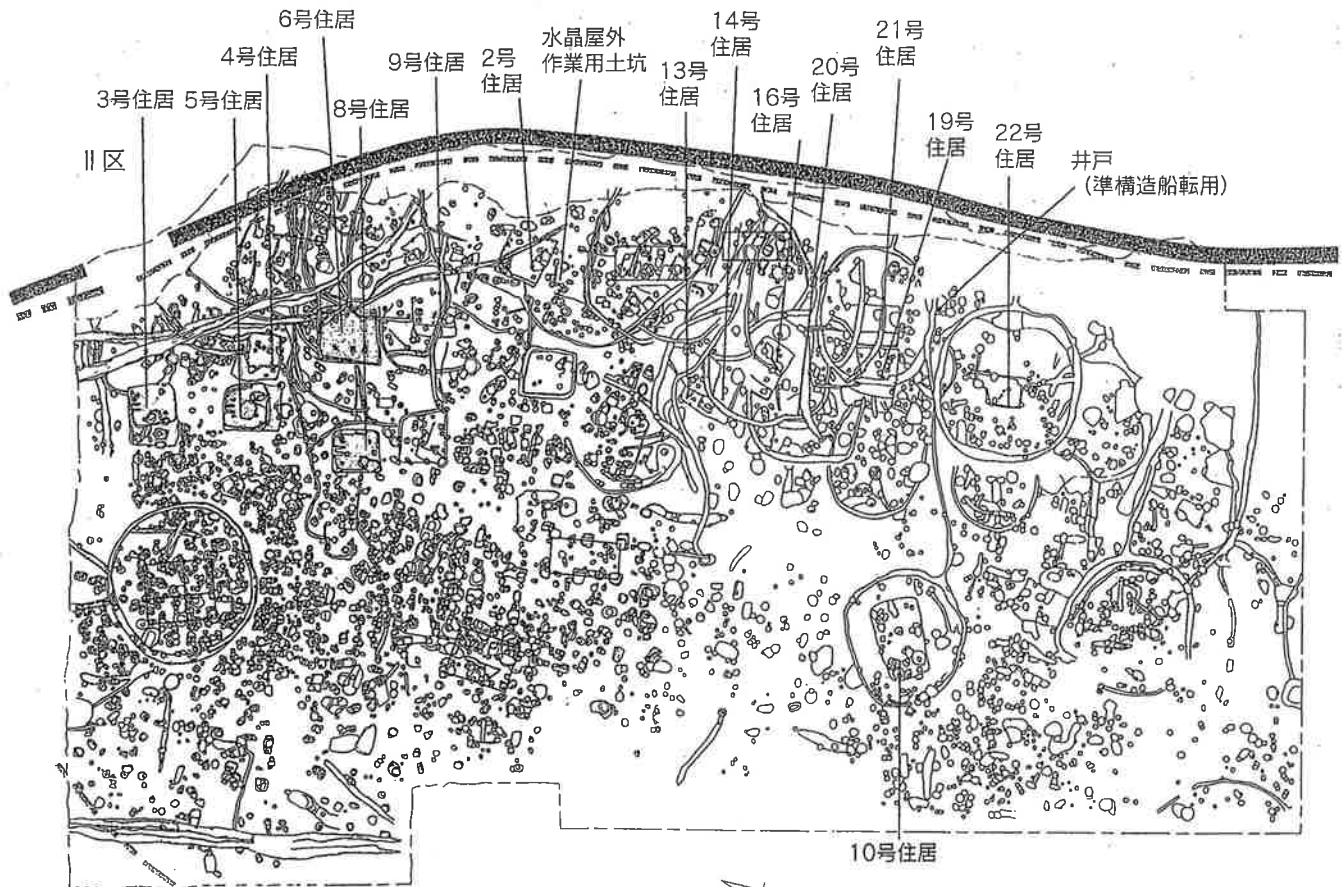
鑄造関係では、10号鏡ほど鑄びけはないが、全体にシワ・ヒビが多く、裏面の鈕下部や鏡縁などにも「巣」が発生している。九重の同心円突線は、10号ほどではないが鈍い断面形となっている。鏡面の「巣」は、湯口と鈕から下部に著しく、鏡縁付近にも分布する。両面共に湯口から見ると鈕の下部に「巣」が著しいのは、鈕孔が湯口に直交するために湯の流れが悪いためであろう。同心円紋の鑄肌には、極細ハケ目状沈線があるが、沈線であるところから原型の地肌をハケ
で調整したことになる。このハケ目の上に同心円に並行して長さ1.5cmの極細突線が2本あり、これは鑄型に沈線として刻まれたことになる。



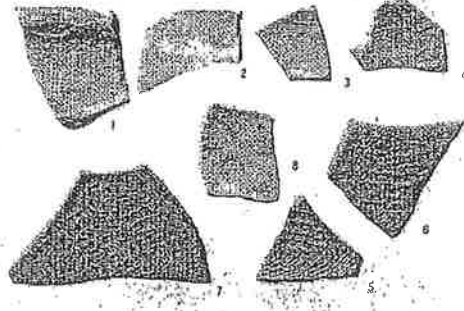
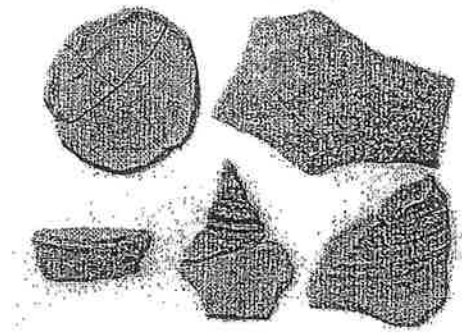
11号鏡拓本実測図 (1/3)



糸島地方の地形略地図 (約20万分の1)

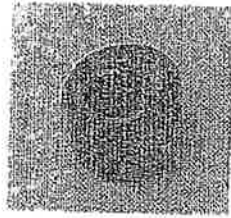


大陸・半島系の遺物

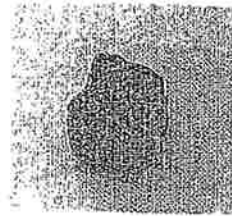


第1図 楽浪土器※

(番上地区
土器溜まり)



第2図※
ファイアンス玉
(仲田 I-16号住居)

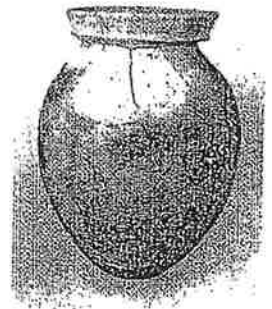
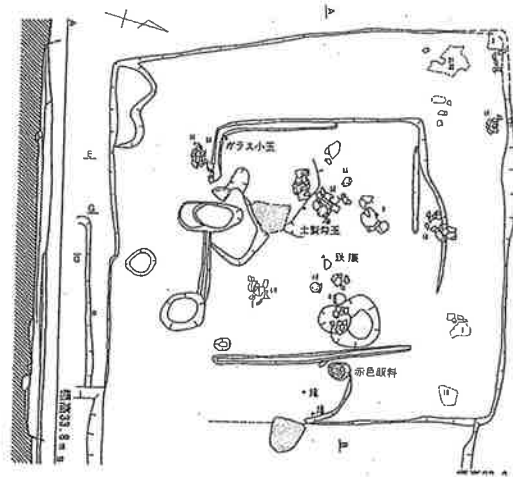


第3図※
辰砂
(仲田 I-16、
番上 II-6)



第4図
鑄造鉄斧
(堺地区)

倭国各地との交流



第5図※
サキノノ地区1号住居と出土遺物
(1. 庄内式土器 2. 山陰系二重口縁壺)



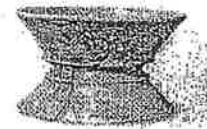
1. イフー7大溝



2. 番上 II-5 土器溜



3. 仲田 I-16
不整形土坑



4. 寺口 II-17 大溝



5. 番上 II-5 土器溜

第5図 三雲・井原遺跡出土各地の土器 (1・2. 瀬戸内系, 3. 吉備系, 4. 山陰系, 5. 東海系)

邪は、伊都に届り、傍、斯馬に連なる。

広志に曰く、倭国、東南に陸行すること五百里にして、伊都国に到る。又南して邪馬臺国に至る。女王国より以北は、其の戸数道里、略載することを得べし。次に斯馬国。次に巴百支国。次に伊那国。案ずるに、倭の西南に海行すること一日に、伊那分国有り。布帛無く、革を以て衣と為す。蓋し伊那国なり。

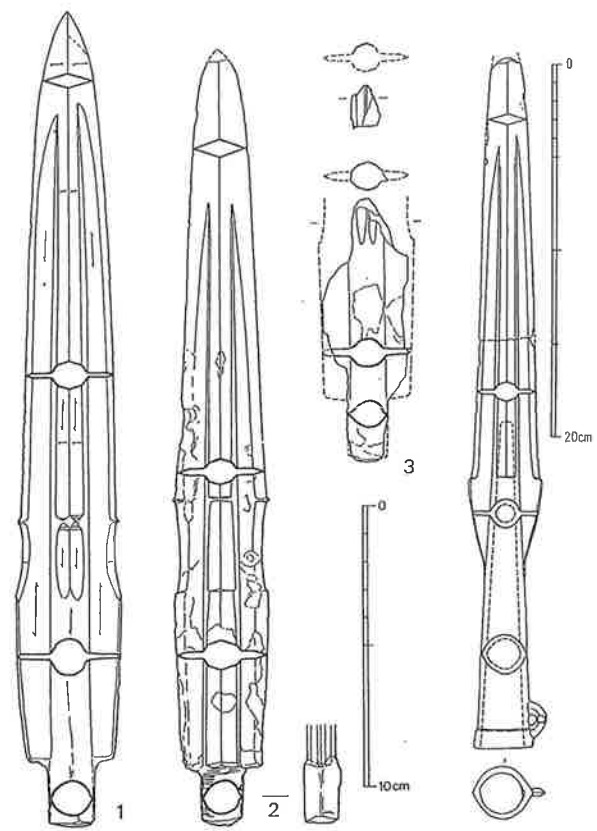
倭西南海行一日有伊那分国無布帛以革為衣蓋伊那

戸数道里可得略載次斯馬国次巴百支国次伊那国安

南陸行五百里到伊都国又南至邪馬臺国百支国以北其

邪馬 廣志曰 倭国東

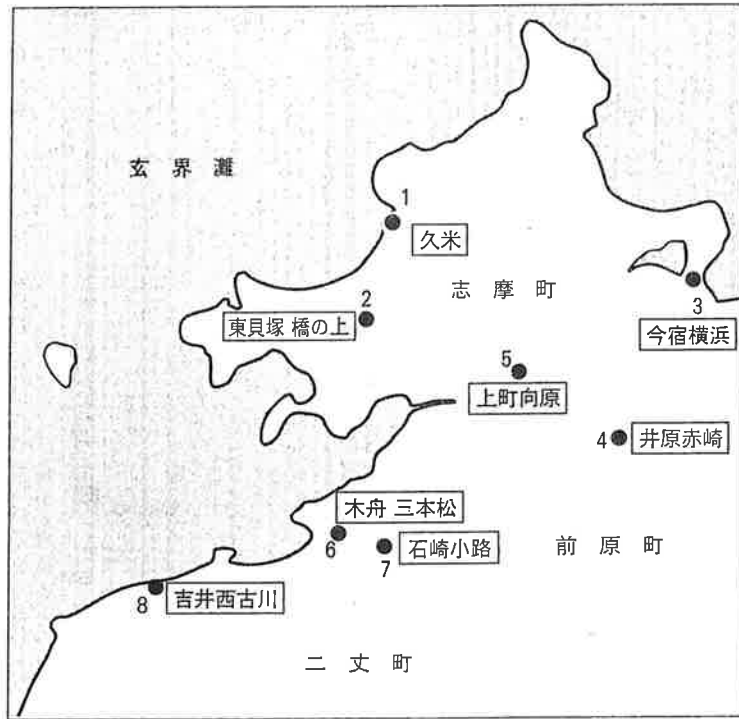
翰苑



赤崎・吉井・向原出土の銅剣実測図

吉井出土銅矛実測図

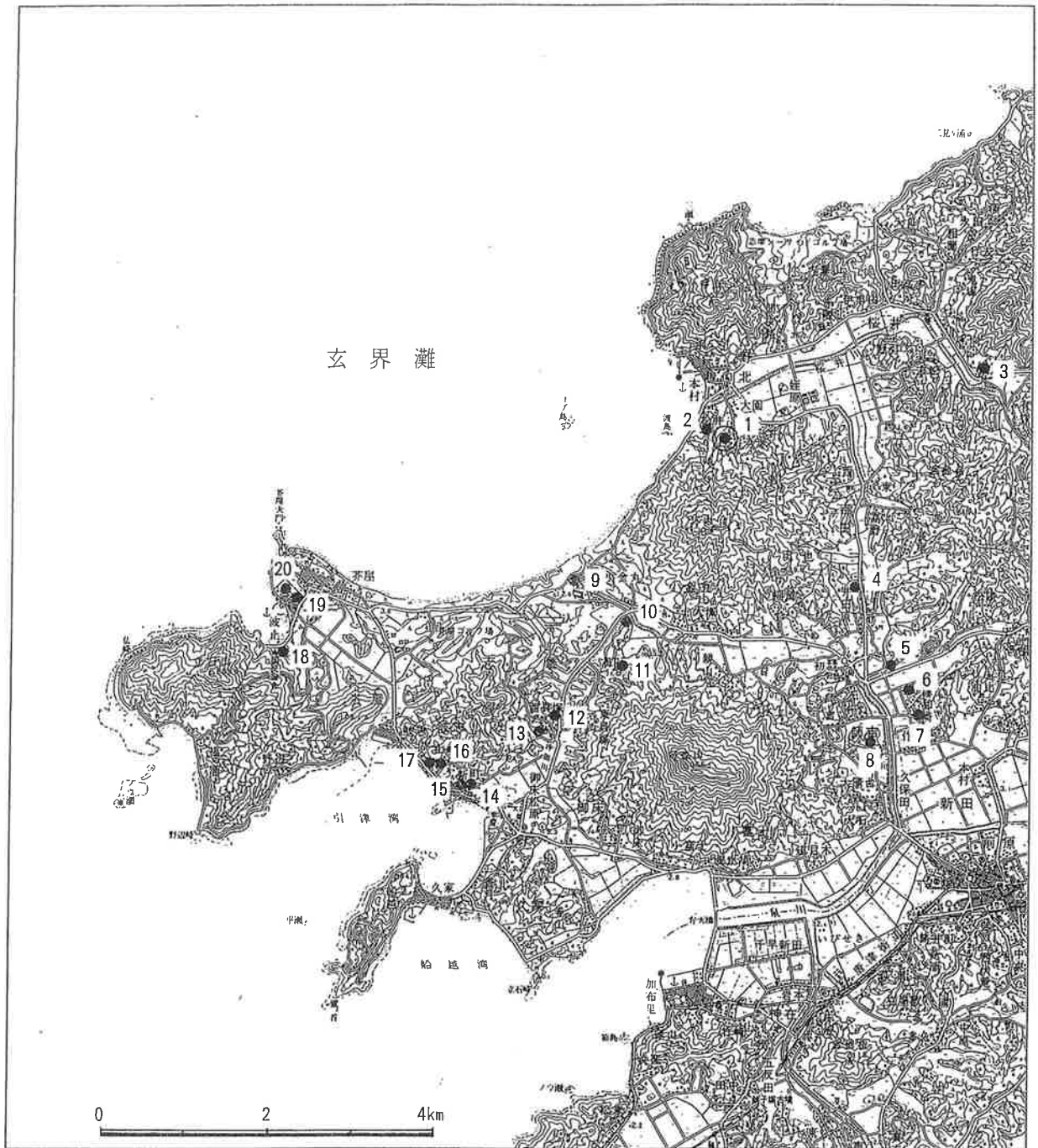
柳田康雄『九州弥生文化の研究』より



No.	出土地名	遺構	副葬品
1	久米	甕棺墓	細形銅剣1 細形銅戈1 管玉6
2	東貝塚橋の上	甕棺墓	磨製石剣1
3	今町横浜	土壇墓	銅剣1
4	井原赤崎	?	細形銅剣1
5	上町向原	?	細形銅剣1
6	木舟三本松	甕棺墓	磨製石剣1 ヒスイ勾玉1 管玉18 他
7	石崎小路	甕棺墓	管玉120以上 銅釧1 ヒスイ勾玉1
8	吉井西古川	甕棺墓?	細形銅剣1 細形銅矛1

(※出土伝承地・遺物が現存しないものを除く。)

糸島地域の弥生中期前半期における副葬墓の分布



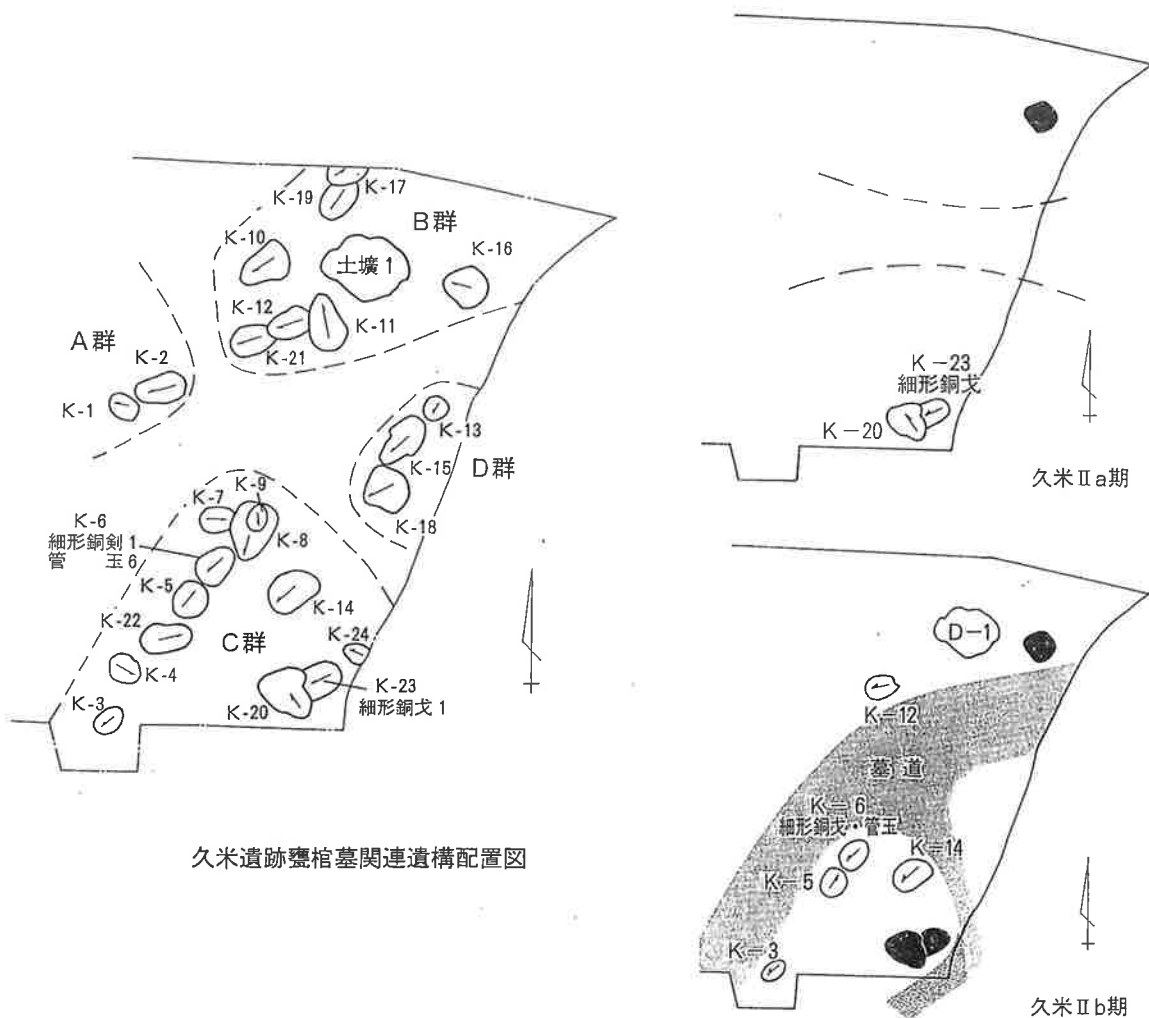
志摩町内の主要遺跡分布図 (1/75,000)

- | | | | | |
|------------|------------|-----------|------------|------------|
| 1. 久米遺跡 | 2. 向畑古墳 | 3. 谷古墳群 | 4. 井田原開古墳 | 5. 四反田古墳群 |
| 6. 後口古墳 | 7. 権現古墳 | 8. 稲葉古墳群 | 9. 大牟田遺跡 | 10. 熊添遺跡 |
| 11. 橋の上遺跡 | 12. 八熊製鉄遺跡 | 13. 千町田遺跡 | 14. 御床松原遺跡 | 15. 新町遺跡 |
| 16. 岐志元村貝塚 | 17. 海徳寺遺跡 | 18. 天神山貝塚 | 19. 藤原遺跡 | 20. 久保地古墳群 |

河合 修, 1999 『久米遺跡』 『志摩町文化財調査報告書』 第21集



調査区位置図 (1/2,500)

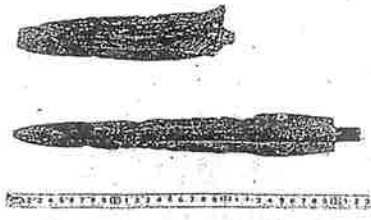


久米遺跡壘墓関連遺構配置図

久米Ⅱa期

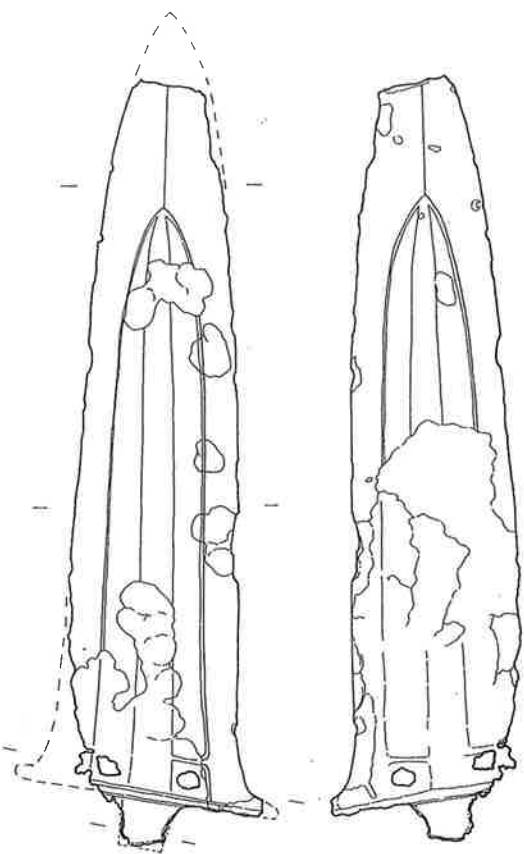
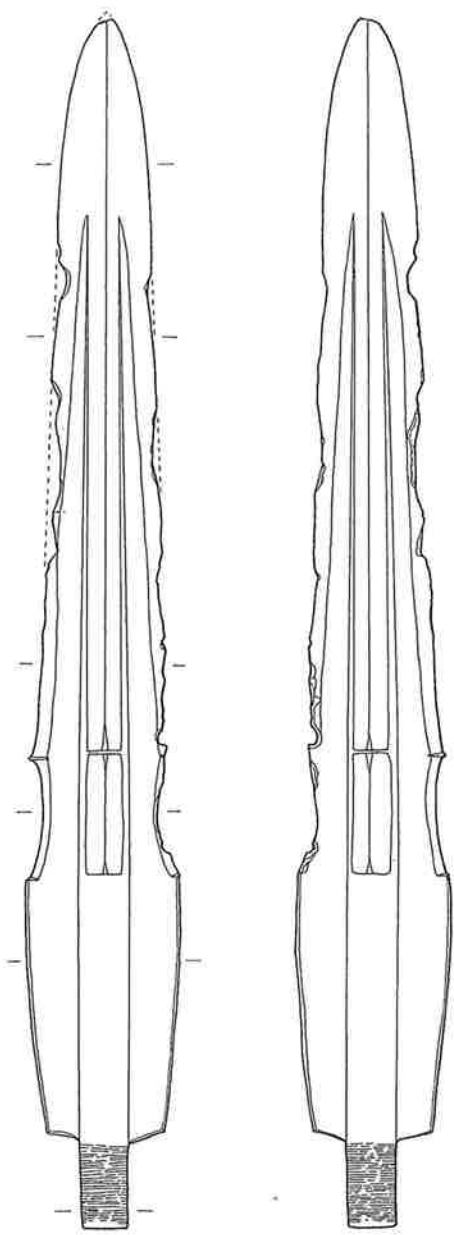
久米Ⅱb期

「伊都国」関与の有力者?



久米遺跡から出土した弥生時代の細形銅戈(上)と細形銅剣

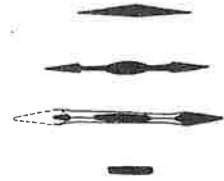
久米遺跡から細形銅剣出土 志摩町
 福岡県糸島郡志摩町教養 表し。権力者を象徴する
 は二日、同町野北の久米 青銅武器が見つかったこ
 遺跡から二十三基の銅短剣 (かめんぎ)が見つか
 その中から弥生時代前期末 国」の形成にかかわりあ
 から中期初頭(紀元前二 った有力者が存在したと
 紀元)のものと思われる 専門家は、
 細形銅戈(2)と細形 出土した細形銅戈は長
 銅剣が各一本出土した 約二十センチ、先端部の約一



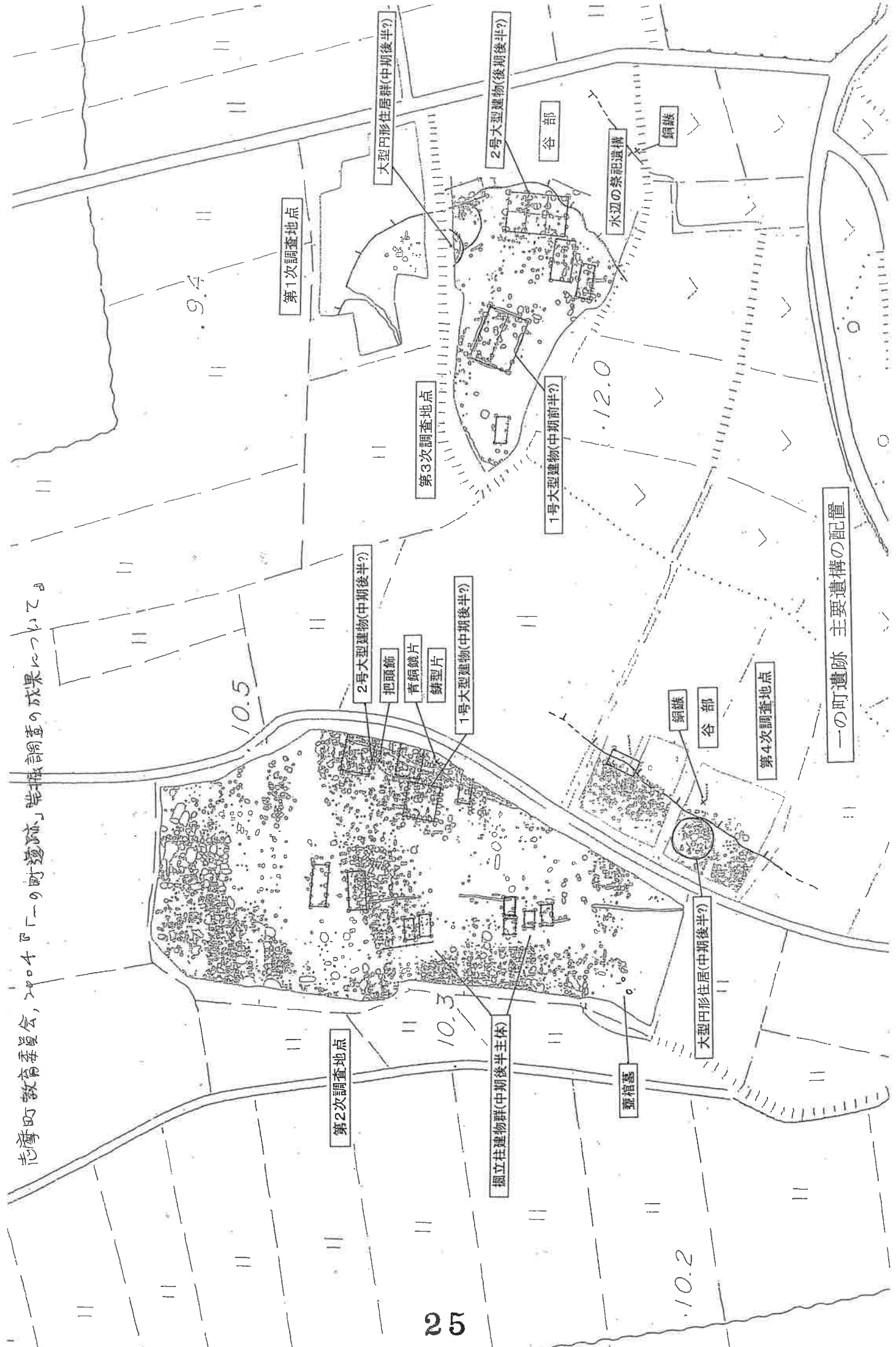
が失われている。厚さが最大で四センチと非常に薄い。細形銅戈はこれまで北部九州を中心に全国で十一例しか見つかっていない。
 細形銅剣は長さ約三十二センチ、最大幅が約四センチ、さやと思われる木片が先端部など二カ所に残っていた。ともに、高さが一センチ前後の大型甕棺から発見された。
 町教委では、特に細形銅戈は精巧で金属の質も良いことから、当時交易があったとされる朝鮮半島製ではないかとみている。
 西谷正九大教授(香豆子)の話、弥生時代は、志摩町で初めて確認された有力者の存在だ。その後の勢力拡大によって、伊都国形成に関与した可能性もあり、当時の状況を知る貴重な資料だ。

K-6 出土 細形銅剣

K-23 出土 細形銅戈



志摩町教育委員会, 2004 『「一の町遺跡」発掘調査の結果について』



一の町遺跡 主要遺構の配置

倭人伝「斯馬国」拠点か

弥生中期の大型建物跡



福岡県志摩町教委は21日、同町小金丸の一の町遺跡で、弥生時代中期後半(約2千年前)の同時代最大級の大型建物3棟を含む大規模な集落跡が見つかった、と発表された。玄界灘に面する大陸との対外交渉の最前線にあたり、「魏志倭人伝」などに記述がある「斯馬国」の拠点との見方が出ている。

福岡・志摩町 大規模集落 中央に3棟

遺跡は当時の海岸線近くに位置し、弥生中期前半から後期前半にわたる掘り立て柱建物跡十数棟や直線に並ぶ柵列、貯蔵穴などが見つかった。集落中央では約50平方メートルのほぼ正方形の大型建物2棟と、長方形の1棟がまとまって出土。このうち1棟は、合計22本の柱穴がいずれも1メートル以上でその中に30センチ程度の柱の痕跡も残っていた。中央部には床を支える横持柱の穴もあった。同時に見つかった土器などから、3棟とも中期後半とみられる。



柱穴群が見つかった「一の町遺跡」=21日、福岡県志摩町で

遺跡は当時の海岸線近くに位置し、弥生中期前半から後期前半にわたる掘り立て柱建物跡十数棟や直線に並ぶ柵列、貯蔵穴などが見つかった。集落中央では約50平方メートルのほぼ正方形の大型建物2棟と、長方形の1棟がまとまって出土。このうち1棟は、合計22本の柱穴がいずれも1メートル以上でその中に30センチ程度の柱の痕跡も残っていた。中央部には床を支える横持柱の穴もあった。同時に見つかった土器などから、3棟とも中期後半とみられる。

施設など特殊な役割を持った建物ではないか」とみている。

国製の「方格規矩四神鏡」の破片や右でできた剣の柄飾りのほか、ガラスや碧玉製の管玉が見つかり、有力な首長の存在を示すという。

魏志倭人伝では邪馬台国の地理的な位置の説明の後、「次に斯馬国あり」と記されている。周辺には豪華な副葬品で有名な伊都国王墓の三雲南小路遺跡がある。

王墓の発見に期待西谷正・九州大教授の

「伊都国」との関係が焦点に

《解説》一の町遺跡のある糸島半島は弥生時代、大陸文化の受け入れの役割を担った。志摩町教委によると当時、同遺跡周辺にまで海が迫っていたといい、大型建物群は外交施設との見方が浮上している。

従来、糸島半島は強大な勢力を誇った伊都国(福岡県前原市周辺)の一部としてとらえられてきたが、同遺跡の出現は独立する勢力の存在の想定を可能にした。その候補が「斯馬(ま)国」だ。「翰苑(かんえん)」に

話 建物の規模などから、魏志倭人伝や「翰苑(かんえん)」などの中国の歴史書に記述のある「斯馬国」の中心的な集落だった可能性がある。伊都国との関係の解明も含め、今後の調査で王墓などの発見を期待したい。

は「伊都に届いたり、傍(かたわら)」、斯馬に連なる」とあり、読み方によっては伊都国と境を接することをお知らせする。中国の歴史書記載の弥生のクニグニで場所が確定しているのはわずかなだけに、斯馬国とすれば倭国の実態を知ろうと大きな手がかりを提供することになりそうだ。

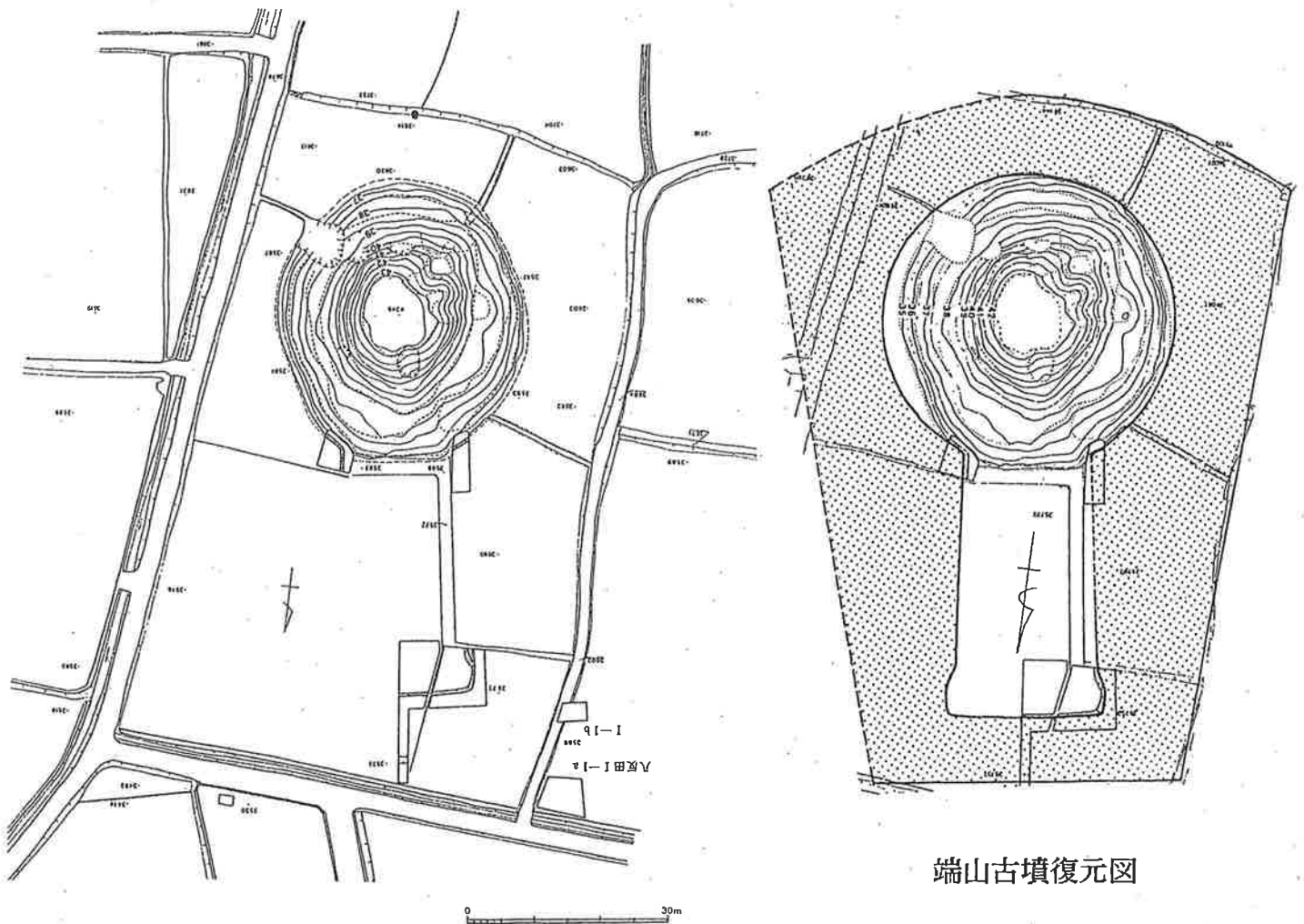
問題は伊都国との関係。弥生中期後半以降、豪華な副葬品を持つ王墓が現れ、邪馬台国台頭まで倭国の代表として奴国と覇権を争った。「後漢書倭伝」にある西暦107年の中国への朝貢の主体は、伊都国ともいう。今回見つかった拠点集落が、伊都国の「出先機関」なのか、独立勢力だったのか。その性格付けが今後の課題となろう。

(学芸部・中村俊介 社会部・山本義裕)

はやま
端山古墳

所在地	前原市大字三雲字塚廻り
立地	沖積微高地（標高 36m）
墳丘	前方後円墳（全長 77.5m、後円部径推定 42m、前方部長推定 36m）
	段築 後円部 3 段 造出 無
外表施設	葺石 有 周溝 有 埴輪 無
内部主体	不明
出土遺物	〔墳丘〕 土師器（周溝から出土）
時期	集成編年 2 期
特記事項	前方部削平
文献	柳田康雄・児玉真一他「端山・築山古墳の調査」『三雲遺跡Ⅲ』

福岡県文化財調査報告書 63 集 1982 年



端山古墳復元図

端山古墳地形測量図(1/1200)

所在地	前原市大字泊字大塚
立地	丘陵端部 (標高 15m)
墳丘	前方後円墳 (全長推定 75m、後円部径 45m、前方部削平のため不明)
	段築 後円部 3 段? 造出 無
外表施設	葺石 有 周溝 無 埴輪 無
内部主体	不明
出土遺物	無
時期	集成編年 3 期?
特記事項	
文献	岡部裕俊編『泊桂木遺跡』前原市文化財調査報告書第 64 集 1997 年

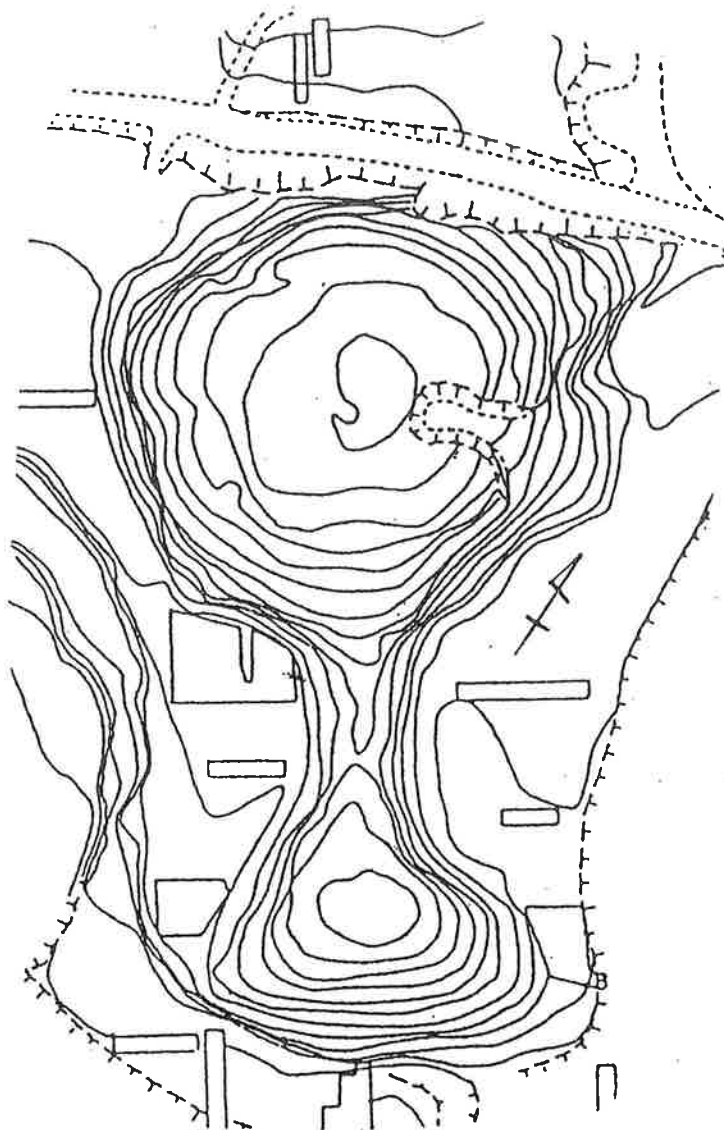


泊大塚古墳(1/700)

泊大塚古墳群地形測量図(1/2000)

おどろぐやま
御道具山古墳

所在地	前原市大字泊地大塚
立地	丘陵上 (標高 17m)
墳丘	前方後円墳 (全長復元約 65m、後円部復元径約 40m、前方部復元長 25m)
	段築 前方部 2 段?・後円部 3 段? 造出 無
外表施設	葺石 有 周溝 有 埴輪 無
内部主体	不明
出土遺物	〔墳丘〕古式土師器— 甕、弥生土器
時期	集成編年 1 期
特記事項	周溝がめぐり、一部葺石も巡る。前方部は撥方に開く可能性がある。前方部前面に一辺 14m の方墳があり、内部主体は玄武岩板石製の箱式石棺。盗掘排土から鉄剣出土。後円部裾から古式土師器が出土。
文献	無



御道具山古墳地形測量図(1/600)

国内最古級の硯 九州で出土

弥生時代

中国の史書「魏志倭人伝」が記す伊都国の王都とされる福岡県糸島市の三雲・井原遺跡で、国内最古級の硯の破片（弥生時代中期後半～後期Ⅱ紀元前1世紀～紀元後2世紀）が出土したⅡ写真Ⅱ。朝鮮半島北部に前漢が設置した



「文字文化」知る手がかり

楽浪郡の使節が、筆で文字を書いたために使ったとみられ、日本における文字文化の始まりを考える上で重要な手がかりとなる。

同市教委によると、硯の破片は昨年12月、土器などと一緒に出土。長さ6センチ、幅4.3センチの石片で、厚さ6ミリという薄い仕上げや、片面だけ研磨されるなどの特徴が、楽浪



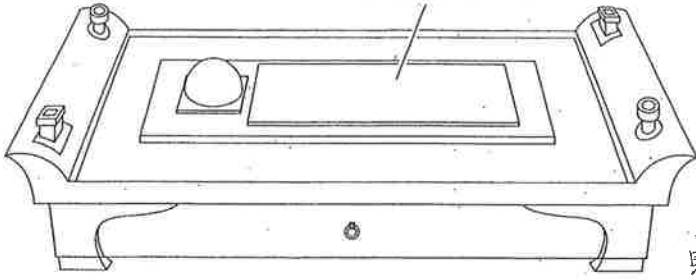
郡の遺跡で出土した硯と一致した。ほかにも50点を超える国内最多の楽浪系土器が出土し、楽浪郡の使節が滞在していた可能性が高いという。

倭人伝は伊都国について、「往来する郡使が常に滞在する所」と記し、「(伊都国の)港で贈答する文書や品物の検査を行う」と、文字の使用を示唆する記述もある。市教委は、今回の硯は倭人伝の記事を裏付けるとみている。

西谷正・九州大名誉教授（東アジア考古学）の話「倭人伝にいう外交文書や品物の目録作成を、伊都国に滞在する楽浪人が担っていたことがうかがわせる発見だ」

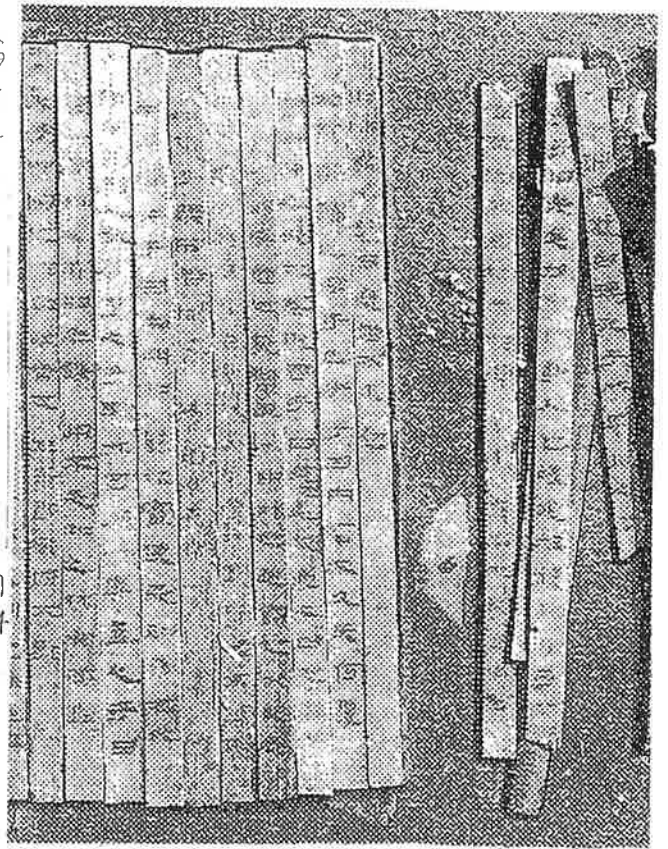
楽浪郡の遺跡で出土した
すずりのイメージ図

石製のすずり

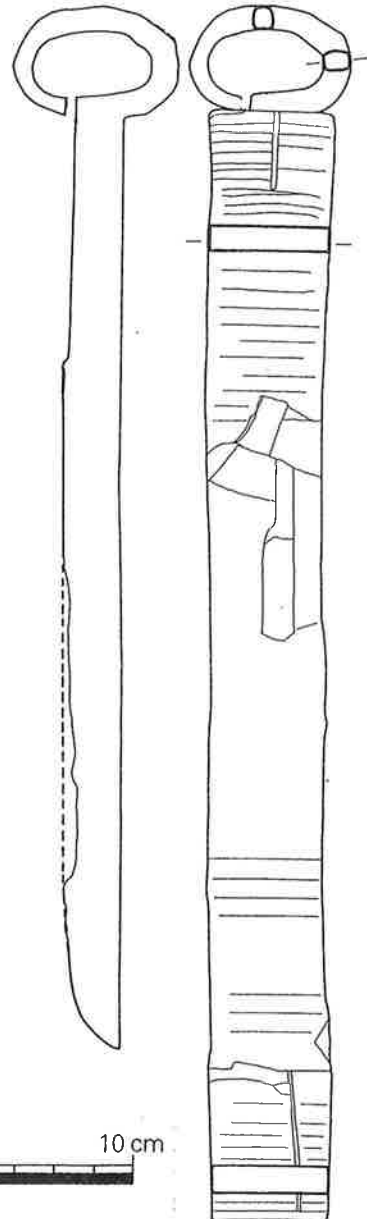
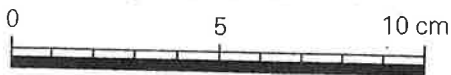
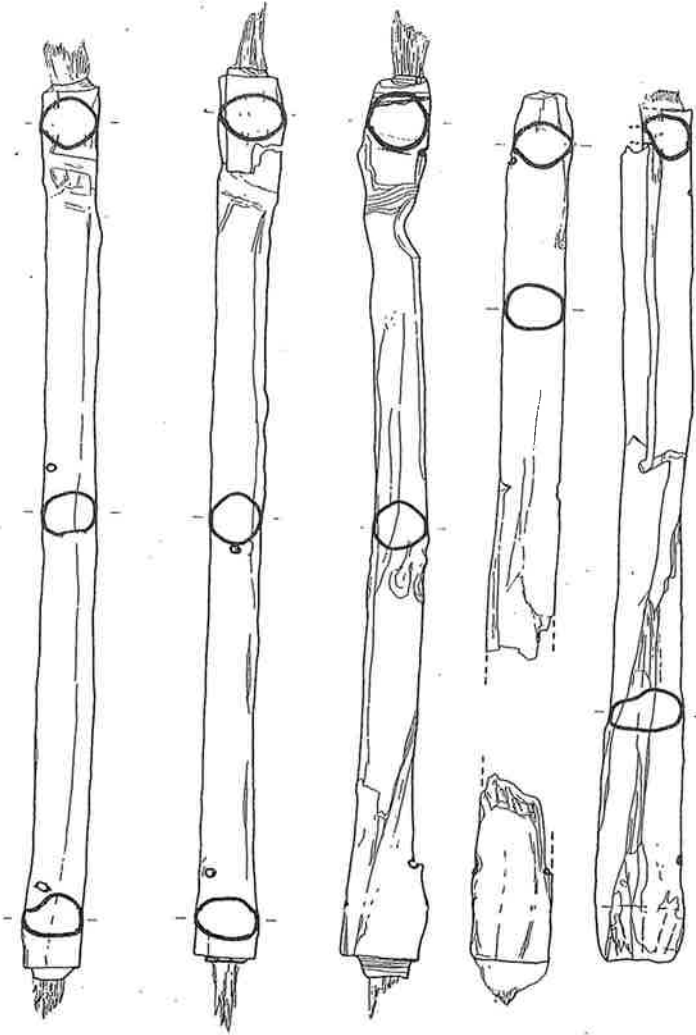


彩籬塚出土 硯台

論語 竹簡



貞栢洞 364号墳



李健茂ほか, 1989「義昌茶戸里遺蹟発掘進展報告(Ⅰ)」
『考古学誌』第1輯, 韓国考古美術研究所